

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	75	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	0	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
先端情報環境学特講 I
先端情報環境学特講 II
先端情報環境学演習 I
先端情報環境学演習 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
国際学会報告	Framework of the Japan Survey on Information Society (JIS): JIS2001, JIS2002 and JIS2004	NAOI Atsushi & IWABUCHI Akiko	2005.7	The 37th World Congress of the International Institute of Sociology(IIS)
国際学会 Session Organizer			2006.3	The 30 th Annual Conference of the German Classification Society(GfKI)
国際学会 chair person	The Social Consequences of Information Technology		2005.7	The 37th World Congress of the International Institute of Sociology
国際学会 Session Organizer			2006.3	Japanese-German Workshop

先端人間科学 前迫 孝憲

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	7	人				
うち	社会人院生	4	人	留学生	0	人
博士後期課程	6	人				
うち	社会人院生	3	人	留学生	1	人
研究生	2	人				
学部生	8	人				
学位申請者	2	人				

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育システム情報学会	理事	2003.10.	2007 予定
協会	日本教育工学協会	理事	2002.4.	2008 予定
学会	日本科学教育学会	評議員	1998.7.	2006 予定
学会	日本教育工学会	評議員	1998.6.	2009 予定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科運営会議	副部局長	2004.4.	2006.3.
情報ネットワークシステム委員会	委員	2004.4.	2006.3.
サイバーメディアセンター運営委員会	委員	2000.4.	
サイバーメディアセンター広報委員会	委員	2000.4.	

担当授業科目
インターネットメディア論特定演習(COE 科目)
コミュニケーションメディア特講 I
コミュニケーションメディア特定研究 I
コミュニケーションメディア特定研究 II
コミュニケーションメディア特定演習 I
コミュニケーションメディア特定演習 II
コミュニケーションメディア特別研究 I
コミュニケーションメディア特別研究 II
コミュニケーションメディア特別演習 I
コミュニケーションメディア特別演習 II
学習情報学 I
学習情報学演習 I
臨床教育学実験実習 I

臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	河川実験施設との連携による動画コンテンツを用いた理科教育の実践	埴岡靖司・吉富友恭・今井亜湖・前迫孝憲	2005.1	日本教育工学雑誌 vol.28, (3): 275-280
学術論文	ワーキングメモリ課題遂行中の前頭前野の脳酸素交換機能マッピング—高選択性近赤外線分光法による検討—	小池敏英・林仁美・成基香・前迫孝憲・加藤俊徳	2005.12	臨床神経生理学 vol.33,(6): 548-557
大学・研究会 等論文	立体作製時における脳内ヘモグロビン濃度の変化について	岡本尚子・江田英雄・山内留美・菅井勝雄・前迫孝憲・黒田恭史	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,147-150
大学・研究会 等論文	学校教育の情報化に関する現状と今後の展開に関する調査結果	清水康敬・矢野米雄・前迫孝憲・中山実・堀田龍也	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,249-250
大学・研究会 等論文	現代音楽コンサートの3Gモバイル国際リアルタイム配信	前迫孝憲・管木真治・小寺孝典・重田勝介・奥林泰一郎・中澤明子	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,563-564
大学・研究会 等論文	米国における教育評価システムの動向	岡田香菜子・辻岡圭子・重田勝介・前迫孝憲	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,627-628
大学・研究会 等論文	「超鏡」に関する教員支援サイトの開発と評価	中澤明子・重田勝介・奥林泰一郎・前迫孝憲・松河秀哉・岡田香菜子	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,765-766
大学・研究会 等論文	センサを用いた日米間遠隔合同授業	重田勝介・奥林泰一郎・中澤明子・岡田香菜子・前迫孝憲	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,815-816
大学・研究会 等論文	生体情報を指標とした学習評価の可能性について	黒田恭史・江田英雄・山内留美・岡本尚子・菅井勝雄・前迫孝憲	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,719-720
大学・研究会 等論文	児童の川の見方に基づいたデジタルコンテンツ提示方法の検討	吉富友恭・今井亜湖・埴岡靖司・高桜陽子・前迫孝憲	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,771-772
大学・研究会 等論文	筋電図実測などの実験を組み入れた看護学生への「ボディメカニクス」教育の試み	伊丹君和・豊田久美子・久留島美紀子・本田可奈子・前迫孝憲	2005.9	日本教育工学会第21回大会論文集,905-906
大学・研究会 等論文	乗法・除法における順思考と逆思考がもたらす脳内ヘモグロビン濃度変化の差異について	岡本尚子・菅井勝雄・前迫孝憲・黒田恭史	2006.1	日本教育工学会研究報告集 06-1,1-8
大学・研究会 等論文	遠隔映像協調環境の分析	重田勝介・松河秀哉・前迫孝憲	2006.1	日本教育工学会研究報告集 06-1,15-18
大学・研究会 等論文	国際交流学習におけるコーディネータの役割に関する研究	奥林泰一郎・重田勝介・中澤明子・岡田香菜子・前迫孝憲	2006.1	日本教育工学会研究報告集 06-1,23-26
大学・研究会 等論文	遠隔映像協調環境の分析	重田勝介・中澤明子・松河秀哉・前迫孝憲	2006.2	情報コミュニケーション学会研究報告集

学会発表	広汎性発達障害児におけるストループ課題遂行中の前頭前野脳血流動態	後藤隆章・小池敏英・加藤俊徳・前迫孝憲・杉浦壽彦	2005.10	第 35 回日本臨床神経生理学会学術大会 P-1104
学会発表	ウェルニッケ野における COE(脳酸素交換機能マッピング)—FORCE 効果と WATERING 効果による単語理解の判別法—	吉野加容子・加藤俊徳・小池敏英・前迫孝憲	2005.10	第 35 回日本臨床神経生理学会学術大会 P-1105
学会発表	ブローカ野における COE(脳酸素交換機能マッピング)—FORCE 効果の検出法の検討—	渡邊流理也・小池敏英・加藤俊徳・前迫孝憲	2005.10	第 35 回日本臨床神経生理学会学術大会 P-1106

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	1	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	1	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生		2	人						
学部生		5	人						
学位申請者		0	人						

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	地域別議員	2003.4	2007.3
学会	日本人間工学会	評議員	2001.4	2007.3
学会	関西心理学会	委員	2003.4	2007.3
学会	電子情報通信学会 安全性研究専門委員会	委員	2004.1	2007.1
国・地方公共団体	国土交通省 運転士の資質向上検討委員会	委員	2005.7	2007.3
独立行政法人	日本学術振興会 科学研究費委員会	専門委員	2006.1	200.12
独立行政法人	産業安全研究所	フェロー研究員	2004.4	2007.3
独立行政法人	製品評価技術基盤機構	事故原因技術解析ワーキンググループ 委員	2003.5	2007.4
公益法人	財団法人 労働科学研究所	協力研究員	2000.4	2007.3
公益法人	財団法人 労働科学研究所	編集協力委員	2004.4	2007.3
公益法人	財団法人 国土技術研究センター 建設工事事故対策検討委員会	委員	2004.7	2007.3
公益法人	財団法人 都市交通問題調査会	評議員	2005.6	2007.3
公益法人	財団法人 関西情報・産業活性化センター	委員	2005.12	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
安全衛生管理委員会	委員	2004.3	2008.3

担当授業科目
リスク人間科学特定演習 I
リスク人間科学特定演習 II
リスク人間科学特別演習 I
リスク人間科学特別演習 II
リスク人間科学特講 II
リスク人間科学特定研究 I
リスク人間科学特定研究 II
リスク人間科学特別研究 I
リスク人間科学特別研究 II
応用行動学特定演習 I
応用行動学特定演習 II
応用行動学特別演習 I
応用行動学特別演習 II
応用行動学特定研究 I
応用行動学特定研究 II
応用行動学特別研究 I
応用行動学特別研究 II
応用行動学特講 I
現代社会の行動学
心理学測定
交通行動学
交通行動学演習 I
交通行動学演習 II
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	An Experimental Study on Mental Workload at an Elevated Workplace: Comparing Elderly and Young Workers	Usui, S., Egawa, Y., Shoji. T. and Nakamura, T.	2005	Japanese Journal of Applied Psychology, Vol.30, No.2, 73-78.
解説・総説	ヒューマンエラー防止への人間工学的アプローチ 高所墜落災害防止の人間工学的研究	臼井伸之介、江川義之	2005.5	電気評論、Vol.90, No.5, 21-26.
解説・総説	事故・ヒューマンエラー防止を目指して	臼井伸之介	2005.11	学会会報、No.855、127-133.
大学・研究所等の報告	リスクマネジメント教育の有効性評価に関する総合的研究	臼井伸之介、篠原一光、山田尚子、神田幸治、中村隆宏、和田一成、太刀掛俊之	2006.3	厚生労働科学研究費補助金平成17年度総括・分担研究報告書
大学・研究所等の報告	不安全行動の誘発・体験システムの構築とその回避手法に関する研究	臼井伸之介、篠原一光、神田幸治、中村隆宏、太刀掛俊之	2005.4	厚生労働科学研究費補助金平成14-16年度総合研究報告書
会議報告	看護における安全教育、安全意識に関する研究 -質問紙による実態調査結果-	臼井伸之介、青木喜子、和田一成、太刀掛俊之	2005.6	日本人間工学会第46回大会講演集
会議報告	看護における安全教育の有効性に関する研究 -質問紙調査結果-	臼井伸之介、青木喜子、和田一成、太刀掛俊之	2005.9	日本心理学会第69回大会論文集
会議報告	高所墜落災害防止の実験的研究 -心理・生理学的アプローチ-	臼井伸之介	2005.6	人類働態学会第40回大会講演集, (招待講演)
会議報告	課題遂行コストとリスク教示が違反行動に及ぼす効果	和田一成、臼井伸之介、篠原一光、神田幸治、中村隆宏、太刀掛俊之	2005.9	日本応用心理学会第72回大会論文集
会議報告	注意とヒューマンエラー -事故防止の認知心理学アプローチ-	臼井伸之介	2006.1	「事故と安全の心理学」日本心理学会公開シンポジウム, (東北大学)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	3	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	特定非営利活動法人開発と未来工房	理事	2005.3	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間科学プロジェクト特講 I
人間科学プロジェクト特講 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Post-Conflict Pro-Poor Private Sector Development: The Case of Timor-Leste	Kusago, Takayoshi	vol 15 (3&4). 2005 June	Development In Practice
論文	実践型フィールド・ワークへの誘い	草郷孝好	第6号、 2005年	ボランティア人間科 学紀要
専門辞書	Encyclopedia of international development/MDGs	Kusago, Takayoshi	2005	Routledge
専門辞書	Encyclopedia of international development/Paris21	Kusago, Takayoshi	2005	Routledge
専門辞書	Encyclopedia of international development/Free Trade Zones	Kusago, Takayoshi	2005	Routledge
報告書	「開発経済学の視点から」インドネシア母 子健康手帳プログラムに関する学際的調 査報告書	草郷孝好	2005.8	保健医療協力プロジ ェクトの持続可能性 に関する学際的研究
報告書	「第2章付論地域通貨流通実験前のアン ケート調査にみる苫前町住民の生活満足 度に関する考察」苫前町地域通貨流通実 験に関する報告書	草郷孝好	2005.4	北海道商工会連合 会
報告書	「ホンジュラスの持続性学際評価から開発 経済学が学び取れたこと」ホンジュラスリ プロダクティブヘルスプログラムに関する 学際的調査報告書	草郷孝好	2006.3	保健医療協力プロジ ェクトの持続可能性 に関する学際的研究
報告書	「学際的持続性評価調査デザインと持続 可能性:持続性に関する研究動向と国際 協力支援機関・国際 NGO の評価手法」 学際的調査最終報告書	草郷孝好	2006.3	保健医療協力プロジ ェクトの持続可能性 に関する学際的研究

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本比較教育学会	近畿地区幹事	2005.6.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書(共 著)	現代アジアの教育計画/ラオスの教育と教育計画	杉本均・山内乾史編著	2006.3	学文社

行動学系 森川 和則

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	0	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	4	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
施設マネジメント委員会 キャンパス・マスタープラン作成ワーキンググループ	委員	2004.10.5	

担当授業科目
実験心理学(学部)
実験心理学演習 I(学部)
実験心理学演習 II(学部)
人間行動学実験実習 I(学部)
人間行動学実験実習 II(学部)
人間行動学実験実習 III(学部)
卒業演習
卒業研究
基礎心理学特講 II(大学院)
基礎心理学特定研究 I(大学院)
基礎心理学特定研究 II(大学院)
基礎心理学特定演習 I(大学院)
基礎心理学特定演習 II(大学院)
基礎心理学特別研究 I(大学院)
基礎心理学特別研究 II(大学院)
基礎心理学特別演習 I(大学院)
基礎心理学特別演習 II(大学院)

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	笑顔はなぜ記憶を促進するか：顔の再 認記憶における快誘発の効果	山口佐知子・川村 智・森川 和則	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集
学術論文	Adaptation to asymmetrically distorted faces and its lack of effect on mirror images.	Kazunori Morikawa	2005.11	Elsevier 出版 社 (Vision Research 誌)

行動学系 川村 智

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	50	%
社会貢献	0	%
学内運営	0	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			4人		(4人の学部生を2人の教員が指導)
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	ゲームの熟達における時系列チャンクの利用	長井将・川村智	2005.5	日本認知心理学会第3回大会
会議報告	囲碁の手順及び局面の記憶における熟達の効果	川村智・長井将	2005.7	日本認知科学会第22回大会
会議報告	笑顔はなぜ記憶を促進するか:顔の再認記憶における快誘発の効果	山口佐知子・川村智・森川和則	2005.9	日本心理学会第69回大会
大学・研究所等報告	Interference of auditory intervening task on the accuracy of temporal judgment.	Satoru Kawamura	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要第31号, Pp. 1-1.

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	25	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	7	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
その他	製品評価技術基盤機構近畿支所	製品誤使用 WG 委員長	2003.4	2006.3
公益法人	大阪自動車学校協会	講師	1990.4	
学会	日本人間工学会	モバイル部会委員	2000.1	
公益法人	自動車技術会	車両特性検討委員	1998.1	
学会	日本認知心理学会	副理事長、編集委員長	2004.6	
その他	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	NEDO ピアレビューアー	1998.2	
学会	International Association of Vision in Vehicles Scientific Committee	科学委員	1996.2	
学会	関西心理学会	常任委員	1995.4	
その他	独立行政法人 交通安全環境研究所	客員研究員	2003.12	2006.3
学会	日本心理学会	専門委員	2001.4	
学会	日本基礎心理学会	評議員	2005.6	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評議会	評議員	2003.4	2006.3
施設マネジメント委員会	吹田地区施設マネジメント担当委員	2005.3	
工作センター運営委員会	委員	2001.4	2006.4
人間科学部	セクシュアル・ハラスメント防止委員長	2004.5	2006.4
人間科学部	副研究科長	2003.5	2006.4
人間科学部	広報委員会委員長	2003.5	2006.4
人間科学部	大学院入試運営委員会委員	2003.5	2006.4
人間科学部	学部入試検討委員会委員	2003.5	2006.4
人間科学部	基本計画委員会委員	2003.5	2006.4
人間科学部	学部入学者選定委員会委員	2003.5	2006.4
人間科学部	大学院入学資格認定委員会委員長	2003.5	2006.4
人間科学部	施設マネージメント担当長	2003.5	2006.4
人間科学部	人事委員会委員	2001.4	

担当授業科目
応用認知行動学
応用認知行動学演習 I
応用認知行動学演習 II
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
卒業演習
卒業研究
適応認知行動学特講 I
適応認知行動学特別演習 I
適応認知行動学特別演習 II
適応認知行動学特別研究 I
適応認知行動学特別研究 II
適応認知行動学特定演習 I
適応認知行動学特定演習 II
適応認知行動学特定研究 I
適応認知行動学特定研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	運転者のメンタル・ワークロードをめぐって	三浦利章(編著)	2005.9	国際交通学会誌
学術論文	高齢者の認知機能	三浦利章・石松一真	2005.7	老人精神医学雑誌
専門書	認知心理学の新しいかたち	三浦利章(分担執筆)	2005.12	誠信書房
学術論文	視覚的注意における能動的動作の重要性	内藤宏・木村貴彦・三浦利章	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要
学術論文	知的障害者の注意機能研究の動向	岡耕平・三浦利章	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要
学術論文	簡便で汎用性のある知的障害者の作業支援法	岡耕平・三浦利章	2005.7	信学技報, 105, No.186, 57-60.
報告書	安心・安全社会構築のためのシステム 人間科学の創成	新井健生・田村坦之・山本茂・三浦利章・藤井隆雄・岩井儀雄・日浦慎作・井上健司・西田正吾・牧野和久	2005.12	コンピュータビジョンとイメージメディア研究会(CVIM)
報告書	注意制御機構における加齢変化の検討:抑制機能を中心として	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2005.12	文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究 2005年度第2回成果報告会資料, 77-82
報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦	2006.3	平成17年度科学研究費補助金実績報告書
報告書	高齢者の情報通信機器操作等に関する心身の機能に関する基礎研究	三浦利章・飯田健夫・山岡俊樹・原田悦子・村田厚生・権藤恭之	2006.3	平成17年度科学研究費補助金実績報告書
国際会議発表	Allocation of the attentional resource during hand-reaching movements.	Naito, H., Miura, T., Kimura, T., and Shinohara, K.	2006.3	3rd International Symposium on Systems & Human Science: Complex Systems Approaches for Safety, Security and Reliability

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3名の博士前期課程院生を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	3名の博士後期課程院生を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	0	人				
学位申請者	0	人				

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
公益法人	特定非営利法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構	HMD 安全委員会委員	2004.9	
公益法人	社団法人自動車技術会	車両特性企画部会ドライバー評価手法部門委員	2004.4	
学会	大阪交通科学研究会	学会誌編集委員	2004.4	
学会	日本認知心理学会	学会誌編集委員	2003.5	
学会	日本人間工学会モバイル人間工学会	企画委員	2002.4	
学会	日本人間工学会関西支部	企画幹事	2001.4	
公益法人	財団法人鉄道総合技術研究所	リサーチアドバイザー	2005.7	
公益法人	社団法人大阪自動車学校協会	法定講習講師	2003.4	
公益法人	社団法人大阪府交通安全協会	安全運転管理者法定講習講師	2002.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
職員集会所「さわらび」運営委員会	委員	2005.9	

担当授業科目
応用認知行動学
心理学実験
適応認知行動学演習 I
適応認知行動学演習 II
人間行動学実験実習 I

人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
適応認知行動学特講Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅱ
適応認知行動学特定研究Ⅰ
適応認知行動学特定研究Ⅱ
適応認知行動学特別演習Ⅰ
適応認知行動学特別演習Ⅱ
適応認知行動学特別研究Ⅰ
適応認知行動学特別研究Ⅱ
日常生活の心理学

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	記憶の心理学と現代社会	篠原一光,三浦利章 (分担執筆)	2006.3	有斐閣
学術論文	外発的・内発的注意制御とその加齢 効果	高原美和,篠原一光	2006.3	大阪大学大学院人間 科学研究科紀要
学術論文	チャットにおける輻輳状況が発話行 動に与える影響—単一話題に関して 複数会話が同時並行する場合	三浦麻子,篠原一光	2006.2	ヒューマンインタフ ェース学会論文誌
会議報告	主観的メンタルワークロードの感受 性の個人差と認知的特性	篠原一光,神田幸治,山田 尚子,中村隆宏,太刀掛俊 之,和田一成,臼井伸之介	2005.12	平成17年度日本人間 工学会関西支部大会 講演論文集
学術論文	車載情報機器からの情報取得後の視覚探 索における持続的注意転導効果	篠原一光,三浦利章	2005.12	国際交通安全学 会誌
会議報告	課題遂行コストとリスク教示が違反行 動に及ぼす効果	和田一成,臼井伸之介, 篠原一光,神田幸治,中 村隆宏,太刀掛俊之	2005.9	日本応用心理 学会第72回大会論 文集
会議報告	奥行き注意移動に対して光学的流 動が与える影響	木村貴彦・緑川直幸・篠原 一光・三浦利章・駒田悠 一・古暮雅郎・山本敏雄	2005.9	自動車技術会学 術講演会前刷集
会議報告	車載機器からの視覚情報処理に伴う 認知的負荷と運転場面の危険事態 検出	篠原一光,駒田悠一, 木村貴彦,三浦利章, 古暮雅郎,山本敏雄	2005.9	自動車技術会学 術講演会前刷集
会議報告	Development of a questionnaire to assess the function of attention in daily life.	Shinohara,K.,Yamada, N.,Kanda,K.	2005.7	9 th European Congress of Psychology
会議報告	課題切替が視覚探索課題に及ぼす 持続的注意転導効果	篠原一光,三浦利章	2005.5	社団法人自動車技術 会学術講演会前刷集
大学・研究所 等の報告	不安全行動の誘発・体験システムの 構築とその回避手法に関する研究 (平成14-16年度総合研究報告書)	臼井伸之介、篠原一 光、神田幸治、中村隆 宏、太刀掛俊之	2005.4	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて3名の教員で指導)

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	7	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
研究会	日本心理学会 注意と認知研究会	運営委員	2004.3	
学会	日本人間工学会関西支部	企画委員	2003.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験(他の教員と共同)
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	Characteristics of Attention and the Safety. Arai, T.(Ed.) Systems and Human Science - For Safety, Security, and Dependability: Selected Papers of the 1st International Symposium SSR 2003	Miura, T., Shinohara, K., and Kimura, T.	2005.2	Elsevier Science Publishers
会議報告	奥行き注意移動に対して光学的流動が与える影響	木村貴彦・緑川直幸・篠原一光・三浦利章・駒田悠一・古暮雅郎・山本敏雄	2005.9	自動車技術会
会議報告	車載機器からの視覚情報処理に伴う認知的負荷と運転場面の危険事態検出	篠原一光・駒田悠一・木村貴彦・三浦利章・古暮雅郎・山本敏雄	2005.9	自動車技術会
報告書	注意制御機構における加齢変化の検討:制御機能を中心として	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2005.1 2	文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究 2005 年度第 2 回成果報告会資料, 77-82.
紀要など	視覚的注意における能動的動作の重要性	内藤宏・木村貴彦・三浦利章	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要
報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦	2006.3	平成 17 年度科学研究費補助金実績報告書
国際会議発表	Allocation of the attentional resource during hand-reaching movements.	Naito, H., Miura, T., Kimura, T., and Shinohara, K.	2006.3	3 rd International Symposium on Systems & Human Science: Complex Systems Approaches for Safety, Security and Reliability

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	8	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	7	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	2	人			
学部生	6	人			
学位申請者	1	人			

注)この他に2回生5名については、教授2名で共同指導

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	理事	2005.7	
学会	日本心理学会	広報誌編集委員長	2005.7	
学会	日本社会心理学会	会長	2005.4	
学会	日本顔学会	監事	2005.1	
学会	社会言語科学会	会長	2003.8	
学会	日本応用心理学会	常任理事	2000.9	
学会	日本感情心理学会	常任理事	1997.4	
公益法人	日本学術振興会	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員	2005.1	2005.12

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価委員会	委員	2003.5	
研究科評価委員会	委員長	2003.5	

担当授業科目
社会心理学演習
社会心理学
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習 I
対人社会心理学特定演習 II
対人社会心理学特講 I
対人社会心理学特講 II
対人社会心理学特定研究 I
対人社会心理学特定研究 II
対人社会心理学特別演習 I
対人社会心理学特別演習 II
対人社会心理学特別研究 I
対人社会心理学特別研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	社会的スキル向上を目指す対人コミュニケーション	大坊郁夫編著	2005.8	ナカニシヤ出版
その他論文	なぜコミュニケーションするのか(対談)	大坊郁夫・高井次郎	2005.3	言語 4月号、8-15. 大修館
学術論文	化粧と衣服の語用論ー自己を演出する方法ー	大坊郁夫	2005.5	現代のエスプリ(臨床の語用論1),454, 60-69. 至文堂
学術論文	社会的場面における人間の非言語的な行動と親和性の向上	大坊郁夫	2005.7	バイオメカニズム学 会誌, 29, 124 -129.
学術論文	顔面表情に伴う顔形態特徴の3次元的測定ー韓国人大学生の場合ー	大坊郁夫・上出寛子・趙 鏞珍・高橋直樹	2005.11	電子情報通信学会 技術研究報告, 105(385), 27-32
学術論文	韓国人の顔形態特徴と社会的スキルとの関係	上出寛子・大坊郁夫・趙 鏞珍・高橋直樹	2005.11	電子情報通信学会 技術研究報告、 103(385), 33-38
学術論文	「話の上手さ」認知の社会的スキルと状況による相違	磯友輝子・大坊郁夫	2005.9	電子情報通信学会 技術研究報告, Vol.105, No.306, 1-6.
学術論文	同輩集団のソシオメトリック構造とコミュニケーション構造の推移(2):コミュニケーション行動に及ぼす個人特性の影響	藤本学・大坊郁夫	2005.9	電子情報通信学会 技術報告,vol.105, No.306, 7-12
学術論文	コミュニケーション・スキルの重要性	大坊郁夫	2006.1	日本労働研究雑誌、546号、13-2

解説・総説	若者のコミュニケーション環境	大坊郁夫	2006.2	言語 3月号、 70-78. 大修館
学会報告	Do Japanese workers differentiate task conflict from relationship conflict? -The relationships among resolution styles, leadership behavior, and intragroup conflict-	Aya Murayama & Ikuo Daibo	2006.1	Society for Personality and Social Psychology 7th Annual Conference, 159
学会報告	A comparison in preferences of male facial features in Japan, Korea and China	Ikuo DAIBO, Hiroto MURASAWA, Yong-Jin CHOU, Dangqi LI	2005.4	AASP 6th Biennial Conference 3 April 2005 Wellington, New Zealand
学会報告	Effects of deliberative and implemental mindsets on enhancement of important aspects of selves	KAMIDE Hiroko & DAIBO Ikuo	2005.4	AASP 6th Biennial Conference 3 April 2005 Wellington, New Zealand
学会報告	The effects of expectancy of an ongoing relationship on interpersonal communication.	Masanori Kimura, Yukiko Iso, & Ikuo Daibo	2005.4	Asian Association of Social Psychology, 6th Biennial Conference 2005

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	45	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	7	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	編集委員	2003.5	
学会	日本社会心理学会	監事	2003.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
図書館委員会	委員	2005.4	
付属図書館豊中地区運営委員会	委員	2005.4	

担当授業科目
社会心理学演習
集団力学
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習 I
対人社会心理学特定演習 II
対人社会心理学特講 I
対人社会心理学特講 II
対人社会心理学特定研究 I
対人社会心理学特定研究 II
対人社会心理学特別演習 I
対人社会心理学特別演習 II
対人社会心理学特別研究 I
対人社会心理学特別研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	Effects of physical threat and collective identity on prosocial behaviors in an emergency. James P. Morgan (Ed.) Psychology of aggression.	Naoki Kugihara	2005.4	Nova Science Publishers, Inc.

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	15	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	50	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
人間行動学実験実習 I
心理学実験

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	若年者における就労観の探索—大学生と常勤経験者との比較の観点から—	植村善太郎	2005.9	日本教育心理学会第47回総会発表論文集
会議報告	若年層における働くことに 対する意識—働くことに対する意味づけを中心として—	植村善太郎	2005.7	KSP(関西社会心理学研究会)発表資料(未公刊)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	45	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	12	人			
うち 社会人院生			0	人	留学生 0 人
博士後期課程	12	人			
うち 社会人院生			2	人	留学生 1 人
研究生	0	人			
学部生	12	人			
学位申請者	2	人	以上の学生を教員2名で担当		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	会員	1970	
学会	日本老年社会学会	評議員・査読委員	1990	
学会	日本社会心理学会	会員	1985	
	大阪府社会福祉事業団	評議員	1999	
	宝塚市市長倫理委員	委員	2000	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室委員会	委員長	2004.1	
セクハラ防止対策委員会	委員	2005.5	

担当授業科目

人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
臨床老年行動学演習Ⅰ
臨床老年行動学演習Ⅱ
臨床老年行動学
卒業演習
卒業研究
臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書	現代老年精神医療	藤田綾子	2005.1	永井書房
教科書	老人・障害者の心理	藤田綾子	2005.3	ミネルヴァ出版
学術論文	高齢者のIT技術へのサポート	藤田綾子	2006.1	電子情報通信学会誌
学術論文	高齢者の消費行動におけるリスク認知	藤田綾子	2005.6	生老病死の行動科学

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	7	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	12	人			
うち	社会人院生		2	人	留学生 1 人
研究生	0	人			
学部生	12	人			
学位申請者	3	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本緩和医療学会	常任理事	1996.7.	
学会	日本ホスピス緩和ケア協会	監事	2000.6.	
学会	日本死の臨床研究会	常任世話人	2000.11.	
財団	日本ホスピス緩和ケア研究振興財団	評議員	2003.6.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
身体障害学生修学援助委員会	委員	2003.4.	
心理教育相談室運営委員会	委員	2003.4.	
部局安全衛生委員会	委員	2004.4.	

担当授業科目
精神医学
臨床老年行動学
臨床老年行動学演習 I
臨床老年行動学演習 II
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
臨床死生学・老年行動学特講 I
臨床死生学・老年行動学特講 II
臨床死生学・老年行動学特定演習 I
臨床死生学・老年行動学特定演習 II
臨床死生学・老年行動学特別演習 I
臨床死生学・老年行動学特別演習 II
臨床死生学・老年行動学特定研究 I
臨床死生学・老年行動学特定研究 II
臨床死生学・老年行動学特別研究 I
臨床死生学・老年行動学特別演研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Why are bereaved family members dissatisfied with specialised inpatient palliative care service? A nationwide qualitative study.	Shiozaki M, Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Tsuneto S, Shima Y.	2005.6	Palliative Medicine 2005; 19(4):319-327.
学術論文	Clinical effectiveness of evidence-based guidelines for pain management of terminal cancer patients in Japan.	Fukui T, Takahashi O, Rahman M, Iino K, Uchitomi Y, Ogawa S, Kita M, Kimijima I, Kondo H, Shino M, Takumi Y, Tsuneto S, Hamaguchi K, Matsumoto M, Mukaiyama T, Yamamuro M, Watanabe A, Setoyama O, Hiraga K.	2005.1	JMAJ 2005; 48(5): 216-223.
著書	家族を看とるとき	恒藤 暁, 窪寺俊之, 沖原由美子.	2005.5	春秋社
著書	一般病棟における緩和ケアマニュアル	恒藤 暁	2005.6	ヘルス出版
学術論文	ICU 患者家族のニーズの抽出とニーズ測定尺度の開発.	辰巳有紀子, 羽尻充子, 中村尚美, 当目雅代, 恒藤暁, 柏木哲夫, 橋本 悟, 藤田綾子.	2005.2	日集中医誌 2005; 12(2): 111-118.
学術論文	遺族のリスク評価法の開発.	坂口幸弘, 池永昌之, 田村恵子, 恒藤 暁.	2005.9	28(1): 87-93.

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	8	人	(研究室全体では 12 名で3名の教員で指導、そのうち直接指導する立場にある者)	
うち	社会人院生	0	人	留学生 0 人
博士後期課程	4	人	(研究室全体では 12 名で3名の教員で指導、そのうち直接指導する立場にある者)	
うち	社会人院生	0	人	留学生 0 人
研究生	0	人		
学部生	12	人		
学位申請者	0	人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	看護師に対する構造化された心理学的サポートグループによる介入プログラムの開発に関する予備的研究	平井 啓, 平井麻紀, 前野正子, 保坂隆, 山田富美雄	2005.4	心身医学 45 (5): 360-366
学術論文	肺癌患者の外来化学療法移行の意思決定に関する探索的研究	平井 啓・所 昭宏・中宣敬・小河源光正・河原正明	2005.4	肺癌 . 45(2): 105-110
学術論文	Why are bereaved family members dissatisfied with specialised inpatient palliative care service? A nationwide qualitative study.	Shiozaki M, Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Tsuneto S, Shima Y.	2005.6	Palliative Medicine, 19 (4): 319-327
解説・総説	セルフ・エフィカシー	平井 啓	2005.4	緩和医療学 7 : 338-339
解説・総説	がん医療における行動科学的研究	平井 啓	2005.12	行動科学 44 (1): 33-38
解説・総説	がん患者を支える看護師として心がけたいこと	平井 啓	2006.1	ナースセミナー 27: 4-9
専門図書	死の受容:「新心理学の基礎知識」	平井啓(中島義明, 繁榭算男, 箱田裕司編)	2005.4	有斐閣ブックス. Pp. 452
専門図書	心理的支援の方法:「緩和・ターミナルケア看護論」	平井啓(鈴木志津枝, 内布敦子編)	2005.4	ヌーヴェルヒロカワ . Pp. 243-252
専門図書	医療従事者のストレスとその対処法「緩和・ターミナルケア看護論」	平井啓(鈴木志津枝, 内布敦子編)	2005.4	ヌーヴェルヒロカワ . Pp. 269-276,

行動学系 桑野 園子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	60	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	2	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	日本学会会議	会員	2005.10	
国・地方公共団体	中央環境審議会	臨時委員	2001.1	
国・地方公共団体	環境省総合研究開発推進会議	検討員	2002.5	
国・地方公共団体	環境省独立行政法人評価委員会	委員	2005.5	
国・地方公共団体	大阪府環境影響評価審査会	委員	2000.5	
国・地方公共団体	大阪府公害審査会	委員	1994.11	
国・地方公共団体	大阪府環境審議会	委員	2004.6	
国・地方公共団体	大阪市環境審議会	委員	2004.8	
国・地方公共団体	枚方市環境影響評価審査会	委員	2003.7	
国・地方公共団体	関西国際空港環境アセスメント委員会	委員	1995.1	
学会	International Commission for Acoustics	理事・Secretary General	2004.4	
学会	International Union of Psychological Science	理事	2004.8	
学会	International Journal: Noise and Health	Editor	1998.8	
学会	Acoustical Society of America	fellow	1996.5	
学会	Congress Selection Committee of International Institute on Noise Control Engineering	委員	2004.8	
学会	Technical Devison 3 of Internatinonal Institutite on Noise Control Engineering	委員長	2005.8	
学会	社団法人日本音響学会	理事	2003.5	
学会	日本音楽知覚認知学会	理事	1994.11	
学会	社団法人日本心理学会国際委員会	委員	2000.6	
学会	日本人間工学会	評議員	1988.4	
学会	社団法人日本騒音制御工学会	評議員	2004.5	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
図書室委員会	委員	2004.5	

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境評価学演習
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
環境心理学特講Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅱ
環境心理学特定研究Ⅰ
環境心理学特定研究Ⅱ
環境心理学特別演習Ⅰ
環境心理学特別演習Ⅱ
環境心理学特別研究Ⅰ
環境心理学特別研究Ⅱ
環境デザイン学特論
環境デザイン学特論演習
心理学実験

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文 (査読論文)	A questionnaire survey on noise problems with elderly people	S. Kuwano, M. Morimoto and T. Matsui	2005	Acoustical Science and Technology
学術論文 (査読論文)	都市基幹公園における利用者の喧騒感に関する研究	森長誠、青野正二、桑野園子	2005	騒音制御
学術論文 (査読論文)	騒音の経済評価—心理実験的手法による騒音に対するWTP構造の検証—	松井孝典、青野正二、桑野園子	2005	環境科学会誌
会議報告 (招待講演)	Loudness of non-steady state noise	S. Kuwano	2005.4	Proceedings of JSPS Symposium
会議報告 (招待講演)	Subjective impression of steady-state and intermittent sounds	S. Kuwano, H. Fastl and S. Namba	2005.8	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告 (招待講演)	Railway bonus and aircraft malus for different directions of the sound source?	H. Fastl, S. Kuwano and S. Namba	2005.8	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering

会議報告	リズムパターンに対する嗜好	豊島久美子、桑野園子、福井一	2005.5	日本音楽知覚認知学会研究発表会資料
会議報告	騒音影響に関する社会調査の標準的な手法について	加来治郎、桑野園子、他	2005.7	日本音響学会騒音振動研究会資料
会議報告	聴覚心理学研究の基礎と応用 III-音質評価研究の現状	桑野園子	2005.9	日本心理学会ワークショップ
会議報告	都市公園の音環境整備に関する諸条件の考察	森長誠、桑野園子、難波精一郎	2005.9	日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	ラウドネスの知覚判断と記憶による判断 - 実験室実験	桑野園子、難波精一郎、Hugo Fastl, 加藤徹	2005.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	ラウドネスの知覚判断と記憶による判断 - 集団実験	難波精一郎、桑野園子、加藤徹	2005.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	イレン音の不快感に関する脳波計測による生理的評価	松井洋輔, 中嶋鴻毅, 市丸朋史, 桑野園子	2005.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	音信号の提示パターンの違いによる音源方向検知	市丸朋史, 桑野園子, 松井洋輔, 中嶋鴻毅	2005.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	改造マフラー装着車に対する沿道住民の反応	田中雅文, 藤川達夫, 押野康夫, 桑野園子	2005.9	自動車技術会秋季学術講演会
会議報告	時間差のあるパルス列のリズム感(2) - 時間差の手掛かりと音色の影響	難波精一郎, 宮嶋訓生, 桑野園子	2005.1	日本音楽知覚認知学会研究発表会資料
会議報告	音楽的情動とリズムおよび音色	豊島久美子, 桑野園子, 福井一	2004.9	日本音楽知覚認知学会研究発表会資料
会議報告	2音の時間差と拍子の体制化	高辻有紀, 桑野園子, 難波精一郎	2005.1	日本音響学会関西支部若手研究者研究交流会
会議報告	ラウドネスの知覚判断と記憶による判断-音源の再生と再認	難波精一郎、桑野園子、加藤徹	2006.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	重なる2音の時間差と拍子の体制化	高辻有紀, 桑野園子, 難波精一郎	2006.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	Loudness evaluation of various musical genres and types of listening behavior	Klaus Laumann, Hugo Fastl, 桑野園子, 難波精一郎, 藤原舞	2006.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集

行動系 青野 正二

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4人の院生を2人の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	2人の院生を2人の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	2人の学部生を2人の教員が指導					
学位申請者	1	人				

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	岸和田市	環境保全審議会委員	2004.8	
学会	日本音響学会	編集委員	2001.5	2005.5

学内委員				
委員会	役職名		就任年月	退任年月
中之島センター・コンベンションセンター運営委員会			2005.4	

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境心理学特講 I
環境心理学特定演習 I (前期課程)
環境心理学特別演習 I (後期課程)
環境心理学特定演習 II (前期課程)
環境心理学特定演習 II (後期課程)
環境心理学特定研究 I (前期課程)
環境心理学特別研究 I (後期課程)
環境心理学特定研究 II (前期課程)
環境心理学特定研究 II (後期課程)
環境評価学演習
環境評価論
心理学実験
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	騒音の経済評価－心理実験的手法による騒音に対するWTP構造の検証－	松井孝典, 青野正二, 桑野園子	2005.9	環境科学会誌
学術論文	都市基幹公園における利用者の喧騒感に関する研究	森長誠, 青野正二, 桑野園子	2005.8	騒音制御

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	1	人	留学生	0	人
博士後期課程	2人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	1				人	
学部生	5人を3名の教員が指導					
学位申請者	1				人	

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	議員	2002.8	現在
学会	日本発達心理学会	理事	1997.4	現在
学会	日本動物心理学会	理事	1997.4	現在
社会福祉法人	都島友の会	理事・評議員	2001.8	現在
財団法人	日本モンキーセンター	評議員	2002.6	現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
施設マネジメント委員会	委員	2004.4	現在

担当授業科目
心理・行動科学入門(共通教育)
比較行動発達学
比較心理学
霊長類行動学演習(学部)
比較行動発達学演習(学部)
行動生態学実験実習Ⅰ(学部)
行動生態学実験実習Ⅱ(学部)
行動生態学実験実習Ⅲ(学部)
卒業演習
卒業研究
比較発達心理学特定演習Ⅰ
比較発達心理学特定演習Ⅱ
比較発達心理学特定研究Ⅰ
比較発達心理学特定研究Ⅱ
比較発達心理学特別演習Ⅰ
比較発達心理学特別演習Ⅱ
比較発達心理学特別研究Ⅰ
比較発達心理学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	幼稚園の屋内と屋外の遊び場面 における幼児の仲間関係	廣瀬聡弥・日野林俊彦・南 徹 弘	印刷中	心理学研究
出版	「よくわかる臨床発達心理学」/霊 長類学と臨床発達心理学	南 徹弘	2005.4	ミネルヴァ書房
会議報告	食事場面における乳幼児の音声 と母親の反応	志澤康弘・伊藤美保・日野林 俊彦・南 徹弘	2005.9	日本心理学会 第69回大会
会議報告	屋内と屋外の自由遊び場面にお ける幼児の仲間関係	廣瀬聡弥・日野林俊彦・南 徹 弘	2005.9	日本心理学会 第69回大会
会議報告	1歳齢保育園児の指さし行動に 対する保育者の言語的応答性	岸本 健・志澤康弘・日野林俊 彦・南 徹弘	2005.9	日本心理学会 第69回大会
会議報告	発達加速現象の研究・その19	日野林俊彦 南 徹弘 赤井 誠生 山田 一憲 糸魚川直祐	2005.9	日本心理学会 第69回大会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	1	人	留学生	0	人
博士後期課程	2人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0 人					
学部生	5人を3名の教員が指導					
学位申請者	0 人					

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	理事	2003.7	2005.6
学会	日本発達心理学会	常任編集委員	2004.1	2005.12
学会	日本心理学会	議員	2003.7	
学会	関西心理学会	委員	2005.4	
学会	日本性教育学会	理事	1984.8	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試専門委員会	委員	2004.4	2006.3

担当授業科目
比較発達心理学特別研究Ⅰ
比較発達心理学特別研究Ⅱ
比較行動発達学
比較発達心理学特定研究Ⅰ
比較発達心理学特定研究Ⅱ
比較発達心理学特定演習Ⅰ
比較発達心理学特定演習Ⅱ
比較行動発達学演習
比較心理学
霊長類行動学演習
比較発達心理学特別演習Ⅰ
比較発達心理学特別演習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅰ(学部)
行動生態学実験実習Ⅱ(学部)
行動生態学実験実習Ⅲ(学部)

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Grooming relationships of adolescent orphans in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>) at Katsuyama: a comparison among orphans with sisters, orphans without sisters, and females with a surviving mother	Kazunori Yamada, Masayuki Nakamichi, Yasuhiro Shizawa, Jun Yasuda, Shinji Imakawa, Toshihiko Hinobayashi, Tetsuhiro Minami	2005.4	Primates
学術論文	動物園来園者の動物への興味・関心と飼育展示舎前での来園者の行動との関連	杉本 崇・中道正之・日野林俊彦・南 徹弘	2005.4	ヒトと動物の関係学会誌
会議報告	平成の発達加速現象	日野林俊彦	2005.8	日本性教育学会第33回大会
会議報告	Relationship of health practice and puberty	Hinobayashi Toshihiko, Akai Seiki, Minami Tetsuhiro	2005.8	XII European conference on developmental Psychology
会議報告	発達加速現象の研究・その19	日野林俊彦・南 徹弘・赤井誠生・志澤康弘・糸魚川直祐	2005.9	第69回日本心理学会大会
学術論文	思春期・青年期の性と性教育	日野林俊彦	2006.2	教育と医学
学術論文	保育園児に対する保育士の介入行動	安田 純・日野林俊彦・南 徹弘	2006.3	人間科学研究科紀要第32巻
会議報告	沖縄県における初潮年齢の推移1968年-2005年	日野林俊彦・安田純・南 徹弘・糸魚川直祐	2006.3	日本発達心理学会第17回大会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	ヒト以外の霊長類が音声によって伝える情報とそれを支える学習の要因	志澤康弘	2006. 3	大阪大学大学院 人間科学研究科紀 要
学術論文	Grooming relationships of adolescent orphans in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>) at Katsuyama: A comparison among orphans with sisters, orphans without sisters, and females with a surviving mother.	K. YAMADA, M. NAKAMICHI, Y. SHIZAWA, J. YASUDA, S. IMAKAWA, T. HINOYASHI, & T. MINAMI	2005. 4	<i>Primates</i>
会議報告	食事場面における乳幼児の音声と母親の反応	志澤康弘・伊藤美保・日野林俊彦・南徹弘	2005. 9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集 1178.
会議報告	Do infants' pointing gestures provoke adults to comment?	岸本 健・志澤康弘・日野林俊彦・南徹弘	2005. 6	Second international workshop on Evolutionary Cognitive Sciences "In Pursuit of Language-Brain Interactions: Language Acquisition, Sentence Processing, and Neurolinguistics"
会議報告	1 歳齢保育園児の指さし行動に対する保育者の言語的応答性	岸本 健・志澤康弘・日野林俊彦・南徹弘	2005. 9	日本心理学会第 70 回大会 論文集 Pp. 1182
会議報告	Infants know that their pointing gestures can provoke adults to comment.	岸本 健・志澤康弘・日野林俊彦・南徹弘	2005.10	The 3rd International Workshop for Young Psychologists on Evolution and Development of Cognition
会議報告	The co-occurrence of vocalization and pointing in infants.	岸本 健・志澤康弘・日野林俊彦・南徹弘	2006. 3	Third international workshop on Evolutionary Cognitive Sciences "Social Cognition: Evolution, Development and Mechanism"
会議報告	幼児の指さし行動に聴衆効果は存在するか?	岸本 健・志澤康弘・日野林俊彦・南徹弘	2006. 3	発達心理学会第 17 回大会

行動学系 山本 隆

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	10	人	10人の学部生を3人の教員が指導		
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本官能評価学会	理事	2002.1	
学会	日本味と匂学会	会長	2000.4	2006.3
学会	日本咀嚼学会	評議員	2000.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
超高压電子顕微鏡センター運営委員会	委員	2002.4	
生命科学・生命工学企画推進室	室員	2003.4	

担当授業科目
行動生理学特講 I
行動生理学特講 II
行動生理学特定演習 I
行動生理学特定演習 II
行動生理学特定研究 I
行動生理学特定研究 II
行動生理学特別演習 I
行動生理学特別演習 II
行動生理学特別研究 I
行動生理学特別研究 II
認知神経科学演習
脳行動学演習
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	味覚発達の生理学	山本 隆	2005.10.	クインテッセンス出版
専門著書	おいしさの生理学	山本 隆	2005.4	サイエンスフォーラム
一般著書	おいしさを感じる脳の仕組みと味覚異常の注意点	山本 隆	2006.1	(財)日本食肉消費総合センター店
一般著書	味覚形成と食教育	山本 隆	2005.6	昭和堂
学術論文	C54BL/6 マウスの各種糖アルコールに対する味覚受容特性	裕 哲崇、宜保 諒、 杉村忠敬、山本 隆	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	おいしさの脳機序	山本 隆	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	ラット腹側淡蒼球への GABAA 受容体阻害薬投与によって味覚嫌悪学習の想起が阻害される	乾 賢、志村 剛、山本 隆	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	味覚嫌悪学習の想起に対する脳幹ノルアドレナリン作用	八十島安伸、山本隆、小林和人	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	味覚嗜好学習の性差について	東松裕子、山本千珠子、山本 隆	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	味覚嗜好性と摂食行動に関する脳機構	山本 隆	2005.12	歯科基礎医学会雑誌
学術論文	味覚嗜好性の相違による脳内モノアミン系物質への影響	山本千珠子、山田朋子、乾 賢、武田弘志、山本 隆	2005.12	日本味と匂学会誌
学術論文	Involvement of the supramammillary nucleus in aversive conditioning.	Y. Yasoshima, T. R. Scott and T. Yamamoto	2005.10	Behavioral Neuroscience
学術論文	Hypothalamic histamine release by taste stimuli in freely moving rats: Possible implication of Palatability.	Y. Treesukosol, T. Ishizuka, C. Yamamoto, K. Senda, S. Tsutsumi, A. Yamatodani and T. Yamamoto	2005.7	Behavioural Brain Research
学術論文	Effects of midazolam on the expression of conditioned taste aversion in rats.	Y. Yasoshima and T. Yamamoto	2005.5	Brain Research
会議報告	Modulation of feeding-induced increase in hypothalamic histamine release of rats by taste information: involvement of palatability.	T. Ishizuka, Y. Treesukosol, C. Yamamoto, K. Senda, S. Tsutsumi, A. Yamatodani and T. Yamamoto	2005.11	Society for Neuroscience
会議報告	Involvement of the nucleus accumbens, extended amygdala, and ventral pallidum in the expression of conditioned taste aversion in rats.	T. Yamamoto, T. Shimura, T. Inui, T.R. Scott and T. Yssoshima	2005.11	Society for Neuroscience
会議報告	おいしさの意義-おいしさから食行動に至る脳機序-	山本 隆	2005.11	アロマセラピー学会誌

会議報告	豊かな味覚でおいしく食べることの大切さ	山本 隆	2005.11	近畿北陸地区 歯科医学会誌
会議報告	味覚嗜好性と摂食行動に関する脳機構	山本 隆	2005.9	Journal of Oral Biosciences
会議報告	糖アルコールは甘いのか?	裕 哲崇、杉村忠敬、 山本 隆	2005.9	Journal of Oral Biosciences
会議報告	食のおいしさとその重要性	山本 隆	2005.9	人間働態学会 会報
会議報告	Brain regions responsible for the expression of conditioned taste aversion in rats.	T. Yamamoto	2005.7	European Psychological Society
会議報告	Effects of palatability of digestion, stress and immunity in rats.	C. Yamamoto and T. Yamamoto	2005.7	Appetite
会議報告	自由行動下ラットにおける味溶液摂取時の視床下部ヒスタミン遊離	石塚 智子、Yada Treesukosol、千田佳 苗、堤 慎太郎、山本 千珠子、大和谷 厚、 山本隆	2005.7	Neuroscience Research
会議報告	味覚嫌悪学習の想起過程における腹側淡蒼球 GABAA 受容体の役割	乾 賢、志村 剛、山 本 隆	2005.7	Neuroscience Research
会議報告	条件学習の想起に対する脳幹ノルアドレナリンニューロンの役割	八十島安伸、山本 隆、小林和人	2005.7	Neuroscience Research
会議報告	大脳皮質味覚野と扁桃体の破壊が結合腕傍核味覚誘発性 c-fos 発現に与える影響	時田賢一、山本 隆、 井上富雄	2005.7	Neuroscience Research
会議報告	Taste effectiveness and preference of sugar alcohols in C57BL/6 mice.	N. Sako, R. Gibo, T. Sugimura and T. Yamamoto	2005.6	Chemical Senses
会議報告	Enhanced responses in the cortical sensory areas to anticipated taste or food stimuli: magnetoencephalography studies in humans.	C. Yamamoto, K. Morikawa, H. Yamamura, S. Nakagawa, M. Yamaguchi, M. Tonoike and T. Yamamoto	2005.6	Chemical Senses
会議報告	Brain mechanisms of hedonic value of taste and ingestive behavior.	T. Yamamoto, T. Shimura, Y. Furudono, C. Ando, H. Imaoka and C. Yamamoto	2005.6	Chemical Senses
会議報告	The role of GABAA receptors in the ventral pallidum on conditioned taste aversion in rats.	T. Inui, T. Shimura and T. Yamamoto	2005.6	Jpn. J. Physiol.
会議報告	The role of the ventral pallidal GABAergic transmission in the ingestion of palatable taste stimuli.	T. Shimura, H. Imaoka, Y. Okazaki and T. Yamamoto	2005.6	Jpn. J. Physiol.
会議報告	おいしさと健康 —咀嚼と味覚の重要性—	山本 隆	2005.5	歯科補綴学会 誌
総説論文	どうしてそれぞれ好みの食べ物が違うのだろうか?	山本 隆	2005.10.	Dental Diamond

総説論文	味の不思議 味わう楽しさ	山本 隆	2005.10.	大阪大学総合 学術博物館 年報 2004
総説論文	Seeing "taste" in the brain.	T. Yamamoto	2005.8	Website for AIST Today
総説論文	Neural substrate of conditioned taste aversion.	T. Yamamoto	2005.7	Website for Conditioned Taste Aversion
総説論文	味覚とストレス	山本 隆、山本千珠 子	2005.7	人間生活工学
総説論文	おいしさにおける味と匂の相互作用	山本 隆、山本千珠 子	2005.6	AROMA RESEARCH
総説論文	塩と味覚—人体の側から	山本 隆	2005.4	日本海水学会 誌
総説論文	味覚の中樞	山本 隆	2005.4	生体の科学

行動学系 志村 剛

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	30	%
社会貢献	2	%
学内運営	8	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	1	人	2人の教員が指導	留学生	0	人
		社会人院生	0	人			
博士後期課程	うち	0	人	2人の教員が指導	留学生	0	人
		社会人院生	0	人			
研究生		1	人				
学部生		12	人	2人の教員が指導			
学位申請者		0	人	2人の教員が指導			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
遺伝子組換え実験安全委員会		2002.4	
環境安全委員会		2004.4	

担当授業科目
行動生理学特定演習 I
行動生理学特別演習 I
行動生理学特定演習 II
行動生理学特別演習 I
行動生理学特講 I
行動生理学特定研究 I
行動生理学特定研究 II
行動生理学特別研究 I
行動生理学特別研究 II
人間科学概論 I (行動の科学)
認知神経科学演習
脳と行動
脳行動学演習
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Neurochemical modulation of ingestive behavior in the ventral pallidum.	T. Shimura, H. Imaoka, and T. Yamamoto	2006.3	European Journal of Neuroscience

行動学系 乾 賢

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	30	%
社会貢献	0	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人	1人の大学院生を3人の教員が指導
うち	社会人院生	0	人
			留学生 0 人
博士後期課程	0	人	
うち	社会人院生	0	人
			留学生 0 人
研究生	0	人	
学部生	9	人	9人の学部生を3人の教員が指導
学位申請者	0	人	

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	ラット腹側淡蒼球への GABAA 受容体阻 害薬投与によって味覚嫌悪学習の想起 が阻害される	乾 賢、志村 剛、 山本 隆	2005.12.	日本味と匂学会誌
学術論文	Effects of brain lesions on taste-potentiated odor aversion in rats	Tadashi Inui, Tsuyoshi Shimura and Takashi Yamamoto	in press	Behavioral Neuroscience

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	8	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本行動計量学会	理事	2003.4	
学会	日本行動計量学会学会誌「Behaviormetrika」および「行動計量学」	編集委員	2003.4	
学会	日本計算機統計学会和文誌「計算機統計学」	編集委員	2005.4	
学会	日本心理学会	地域別議員	2003.4	
学会	日本心理学会学会誌「Japanese Psychological Research」および「心理学研究」	編集委員	2005.11	
学会	日本心理学会	優秀論文賞選考委員会委員	2004.4	
学会	日本教育心理学会学会誌「教育心理学研究」	編集委員	2004.4	
学会	International Meeting of Psychometric Society 2007 実行委員会	委員	2005.2	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学部サイバーメディア室	室長	2005.4	

担当授業科目

統計学 A-II
行動計量学
行動計量学演習 I
行動計量学演習 II
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
多変量解析論
行動データ科学特講 I
行動データ科学特定演習 I
行動データ科学特定演習 II
行動データ科学特定研究 I
行動データ科学特定研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Correct classification rates in multiple correspondence analysis	Adachi, K.	2005.5	Journal of the Japanese Society of Computational Statistics, 17: 1-20
その他	心理学と統計学	足立浩平	2006.1	日本統計学会会報, 126:8-10

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	6	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大阪大学情報ネットワークシステム委員会		2003.9	
大阪大学情報システム小委員会		2003.9	

担当授業科目
情報活用基礎
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%	大学院教育は、研究時間と不可分である
教育	35	%	と考えるが・・・
社会貢献	0	%	社会貢献は勤務時間外に行うようにしている
学内運営	30	%	

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	8	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	Anthropological Science(Japanese Series) 編集委員	2005.2	
学会	日本人類学会	Anthropological Science, Editorial Board	2004.2	
学会	人類働態学会	理事	2002.6	
学会	第 40 回人類働態学会	大会長	2005.6	2005.6
学会	第 112 回日本解剖学会総会・学術集会	組織委員	2005.10	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試委員会		2004.4	
入試委員会 入試制度小委員会		2004.4	
動物実験委員会		2002.7	

担当授業科目
行動形態学特定演習 I
行動形態学特定演習 I
行動形態学特別演習 II
行動形態学特別演習 II
行動形態学特講 II
行動形態学特定研究 I
行動形態学特定研究 II
行動形態学特別研究 I
行動形態学特別研究 II
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
行動生態学実験実習 I
人間科学概論 I (行動の科学)
人類適応学
人類適応学演習
生物人類学
生物人類学演習
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2人の院生を3人の教員が指導			
うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	_____ 人			
うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生	_____ 人			
学部生	3人の学部生を3人の教員が指導			
学位申請者	_____ 人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員	1995.11	
学会	日本人類学会キネシオロジー分科会	幹事	1989.11	
学会	日本人類学会進化人類学分科会	幹事	2001.11	
学会	日本人類学会ヘルスサイエンス分科会	幹事	2002.11	
学会	日本霊長類学会	評議員	2001.6	
学会	日本霊長類学会	編集委員	2001.6	2005.6

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
生物人類学演習
人類適応学演習
生物人類学
人類適応学
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
行動形態学特定演習 I
行動形態学特定演習 II
行動形態学特別演習 I
行動形態学特別演習 II
行動形態学特講 I
行動形態学特講 II
行動形態学特定研究 I
行動形態学特定研究 II
行動形態学特別研究 I
行動形態学特別研究 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	Human origins and environmental backgrounds, R.H.Tuttle ed/Patterns of vertical climbing in primates	Y.Nakano, E.Hirasaki and H.Kumakura	2006.3	Springer, pp97-104
訳書	パピーニの比較心理学	M.R.Papini 著 比 較心理学研究会 訳	2005.8	北大路書房

行動学系 平崎 鋭矢

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	0	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	0	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生		0	人						
学部生		0	人						
学位申請者		0	人						

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員	2004.4	
学会	日本人類学会キネシオロジー分科会	幹事	2002.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Instantaneous rotation axes during active head movements.	MOORE ST, HIRASAKI E, RAPHAN T, COHEN B.	2005. 7	Journal of Vestibular Research
学術論文	Energetic Costs of Bipedal and Quadrupedal Walking in Japanese Macaques.	OGIHARA N, USUI H, HIRASAKI E., HAMADA Y, NAKATSUKASA M.	2005	Primates

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	60	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	7	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	1	人			
学部生	11	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	ヒューマンインタフェース学会	理事	2005	現在に至る
学会	日本認知心理学会	理事	2003	現在に至る
学会	日本認知心理学会編集委員会	委員	2003	現在に至る
学会	日本人間工学会	評議員	1983	現在に至る
学会	日本人間工学会関西支部	評議員	1970?	現在に至る
学会	電子情報通信学会編集委員会	査読委員	2001?	現在に至る
学会	関西心理学会	委員	2000?	2005
学会	ヒューマンインタフェース学会	評議員	2000	2005
	豊中市行財政改革推進市民会議	委員	2001.11	現在に至る
	豊中市行財政改革推進市民会議	専門委員	2001.11	現在に至る

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大阪大学セクシュアルハラスメント相談室	全学相談員	2001	現在に至る

担当授業科目
感性情報行動学演習 I
感性情報行動学演習 II
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
感性情報心理学特講 II
感性情報心理学特定研究 I
感性情報心理学特定研究 II
感性情報心理学特定演習 I
感性情報心理学特定演習 II
感性情報心理学特別研究 I
感性情報心理学特別研究 II
感性情報心理学特別演習 I
感性情報心理学特別演習 II
感性の心理学
心理・行動科学入門
音楽心理学
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	音の百科事典	中村敏枝ほか	2006.1	丸善
学術論文	Effects of receptive listening on the congruence of speakers' response latencies in dialogues.	Nagaoka, C., Komori, M., Nakamura, T. & Draguna, M. R.	2005.3	Psychological Reports, 97, 265-274
学術論文	音声対話における反応潜時が話者印象評定に及ぼす影響～社会的スキルの程度による評定の手がかりの相違～	長岡千賀、小森政嗣、中村敏枝	2005.9	信学技報, 104(745),(HCS-2004-70), 57-60
会議報告	2者の合奏における身体動作の分析	片平建史、中村敏枝、河瀬諭ほか	2005.9	ヒューマンインタフェースシンポジウム論文集'05, 559-562
会議報告	ドラム音を手がかりとしたコミュニケーションの時間的特性と対人印象形成	河瀬 諭、中村敏枝、片平建史ほか 3名	2005.9	ヒューマンインタフェースシンポジウム論文集'05, 401-406
会議報告	演奏音の印象と演奏音聴取後の気分の関係―“感動”の視点から―	川上 愛、中村敏枝、河瀬諭ほか 3名	2005.9	ヒューマンインタフェースシンポジウム論文集'05, 627-630
会議報告	聴取者の感動体験に伴う情動と演奏音の音響特性の関係	安田晶子、中村敏枝、河瀬諭ほか 3名	2005.9	ヒューマンインタフェースシンポジウム論文集'05, 575-580

会議報告	飲食店内における BGM の影響に関する心理学的研究	堀中康行、中村敏枝、河瀬諭、片平建史、安田晶子、川上愛	2005.9	ヒューマンインタフェースシンポジウム論文集'05, 555-558
会議報告	打叩音によるコミュニケーション時の身体動作に関する研究	河瀬諭、中村敏枝、片平建史ほか 2名	2005.5	日本認知心理学会第3回大会発表論文集, 44
会議報告	演奏におけるタイミング—演奏者と聴取者の認知の差—	片平建史、中村敏枝、河瀬諭ほか 2名	2005.5	日本認知心理学会第3回大会発表論文集, 57
会議報告	演奏の音響的特性と聴取者の感動体験の関係	安田晶子、中村敏枝、河瀬諭ほか 2名	2005.5	日本認知心理学会第3回大会発表論文集, 58
会議報告	音楽聴取時の感動と性格特性の関係について	川上愛、中村敏枝、河瀬諭ほか 2名	2005.5	日本認知心理学会第3回大会発表論文集, 56
会議報告	The Influence of Fundamental Frequency(F0) on the Communication of 'Importance' in Speech — cross-language study—	Draguna, M. R., Nakamura, T, Shibasaki, A.et al	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 719
会議報告	演奏者によるコミュニケーションにおける呼吸の影響	河瀬諭、中村敏枝、Maria Raluca Draguna ほか 3名	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 608
会議報告	2 者の演奏におけるタイミング—演奏者の主観量・演奏音の物理的特性	片平建史、中村敏枝、河瀬諭ほか 3名	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 609
会議報告	音楽聴取によって生じる感動と性格特性の関係	川上愛、中村敏枝、河瀬諭ほか 3名	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 749
会議報告	演奏音の音響特性と聴取者の情動ならびに感動体験の関係	安田晶子、中村敏枝、河瀬諭ほか 3名	2005.9	日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 748

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	兵庫県立リハビリテーションセンター	共同研究者	2006.1	2006.3
	独立行政法人産業技術総合研究所	外部研究員	2005.5	2006.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学測定法
文献講読

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	8	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	0	人			
学部生	0	人			
学位申請者	2	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学術審議会	大学設置・学校法人審議会	専門委員	2003.4	2006.3
学会	日本社会学会	理事	2003.1	2006.1
学術団体	大学基準協会 大学審査分科会	主査	2004.4	2006.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	室員(副室長)	2004.4	
運営会議(基本計画委員会)	委員	2004.4	
図書室	室長	2003.4	

担当授業科目
社会学説史
社会変動論
社会環境学演習 I
社会環境学演習 II
社会環境学実験実習 III
卒業演習
卒業研究
社会学理論特講
社会学説史特講
社会学理論特定研究 I
社会学理論特定研究 II
社会変動論特講
社会学理論特別研究 I
社会学理論特別研究 II
人間科学のフロンティア

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術書・単著	モダニティの社会学:モダニゼーションからグローバルゼーションへ	厚東洋輔	2006.2.	ミネルヴァ書房

社会学系 太郎丸 博

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	40	%
社会貢献	20	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	8	人					
		社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	2	人					
		社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人					
学部生		12	人					
学位申請者		0	人					

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	数理社会学会	編集理事(編集委員長)	2005.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
社会学・人間学特別講義Ⅱ
社会学理論特定演習Ⅰ
社会学理論特定演習Ⅱ
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会学理論特別演習Ⅰ
社会学理論特別演習Ⅱ
社会学理論特別研究Ⅰ
社会学理論特別研究Ⅱ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学概論
社会環境学実験実習Ⅱ
人間科学概論Ⅱ
数理社会学特講
卒業演習
理論社会学
社会環境学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	「合理的選択理論:行為と合理性」盛山和夫・ 土場学・野宮大志郎・織田輝哉編『〈社会〉へ の知・現代社会学の理論と方法(上):理論知 の現在』, pp.121-138.	太郎丸 博	2005.8	勁草書房
教科書	人文社会科学のためのカテゴリーカル・データ 解析入門	太郎丸 博	2005.7	ナカニシヤ出 版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
都市とメディア

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
翻訳(共訳)	グローバル化の社会学 木前利秋・木村健吾監訳	ウルリッヒ・ベック	2005.1	国文社
報告書	フランスニュータウン事業公社の評価中間報告書	川野英二	2005.7	財団法人計量計画研究所
報告書論文	社会的排除をめぐる諸問題/排除のリスクの比較研究について	川野英二	2005.9	大阪府済生会人権問題研究所
報告書論文	社会的排除をめぐる諸問題/SEL と RERS—交換をつうじた参入	川野英二	2005.9	大阪府済生会人権問題研究所
学術論文	社会・経済システム第 26 号/リスク社会における排除のリスクと連帯	川野英二	2005.11	社会・経済システム学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	7	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	16	人	を2人の教員が指導		
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育課程委員会委員		2004.05	2006.04

担当授業科目

社会調査法
社会調査法特講
社会学的思考法
社会環境学概論
人間科学概論Ⅱ(人間と社会)
社会学・人間学特別講義Ⅱ
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学実験実習Ⅲ
社会環境学実験実習Ⅰ
社会調査特定演習Ⅰ
社会調査特定演習Ⅱ
社会調査特定実習Ⅰ
社会調査特定実習Ⅱ
社会調査特別演習Ⅰ
社会調査特別演習Ⅱ
社会調査特別実習Ⅰ
社会調査特別実習Ⅱ
経験社会学特定研究Ⅰ
経験社会学特別研究Ⅰ
経験社会学特定研究Ⅱ
経験社会学特別研究Ⅱ
行動マクロ社会学特定研究Ⅰ
行動マクロ社会学特別研究Ⅰ
行動マクロ社会学特定研究Ⅱ
行動マクロ社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究
社会環境学演習Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	社会調査と宗教研究－現代日本人の 宗教意識の測定	川端亮,真鍋一史, 川又俊則,渡辺光 一	2005.6	宗教と社会, 第11号 255-273頁

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3 人の学生を 2 名で指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	5 人の学生を 2 名で指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	40	人				
学位申請者	1	人				

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
経験社会学
社会環境学実験実習Ⅱ
社会環境学実験実習Ⅲ
経験社会学特講
社会調査特定実習Ⅰ
社会調査特定実習Ⅱ
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学概論
社会データ科学特定研究Ⅰ
社会データ科学特定研究Ⅱ
社会データ科学特別研究Ⅰ
社会データ科学特別研究Ⅱ
行動調査特定実習Ⅰ
行動調査特定実習Ⅱ
行動調査特別実習Ⅰ
行動調査特別実習Ⅱ
行動調査特定演習Ⅰ
行動調査特定演習Ⅱ
行動調査特別演習Ⅰ
行動調査特別演習Ⅱ
行動マクロデータ科学特定演習Ⅰ
行動マクロデータ科学特定演習Ⅱ
行動マクロデータ科学特別演習Ⅰ
行動マクロデータ科学特別演習Ⅱ
卒業研究
卒業演習

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
報告書	成熟学歴社会における教育機会不平等	吉川徹	2005.3	『現代日本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』研究成果報告書 pp235-256.

社会学系 牟田 和恵

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	40	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	7	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	1
博士後期課程	6	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	
研究生	0	人			
学部生	23	人	を2人の教員が指導		
学位申請者	0	人	但し、副査として1名の学位論文を指導		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	豊中市男女共同参画審議会委員	委員	2003.6.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人権問題委員会特別小委員会	委員	2005.2.	

担当授業科目
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学実験実習Ⅲ
家族社会学
コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特定研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅱ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	親密なかかわり(『自己と他者の社会学』所収)	牟田和恵	2005.12.	有斐閣
学術論文	家族の近現代—生と性のポリティクスとジェンダー	牟田和恵	2006.3.	社会科学研究所(東京大学 社会科学研究所紀要)

社会学系 山中 浩司

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	6	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	6	人	社会人院生	2	人	留学生	0	人
研究生		0	人						
学部生		20	人	2人の教員が指導					
学位申請者		0	人						

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	特定非営利活動法人 公益セクター調査研究所	専門アドバイザー	2005.7.1.	2006.3.31.

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大学教育実践センター	兼任教員	2004.4	

担当授業科目
現代思想論
社会環境学演習 II
社会環境学演習 I
社会環境学実験実習 III
臨床社会学
臨床社会学特講
文化社会学特別演習 I
文化社会学特別演習 II
文化社会学特講
文化社会学特定演習 I
文化社会学特定演習 I
文化社会学特定研究 I
文化社会学特定研究 II
文化社会学特別研究 I
文化社会学特別研究 II
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
	『臨床文化の社会学』	山中浩司編	昭和堂	2005.2

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	60	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	2
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	1	人			
学部生	0	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
留学生センター教授会	構成員	2004.7	
OUSSEP 充実方策 WG	調査員	2005.4	2006.2
国際交流室会議	構成員	2003.9	
英語表記 WG	構成員	2004.1	

担当授業科目
全学共通教育科目「文化と社会」
グローバル社会学特定実習 I (前期課程)
グローバル社会学特定実習 II(前期課程)
グローバル社会学特別実習 I (後期課程)
社会環境学概論(1回講義)
人間科学概論II 人間と社会、「男性学・女性学」(2回講義)
グローバル社会学特別実習 II(後期課程)
社会学理論特定研究 I
社会学理論特別研究 I
比較社会学特講
歴史社会学
人間学特別講義(中之島センター)(1回講義)
社会環境学演習 I

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	"Fading Glory: America's Disappearing Dream." (薄れる栄光:アメリカの消えて行く夢)	Scott North	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 第32巻

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	10	%
社会貢献	10	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
論文	「マンガを通じた国際交流への期待-モ ナシュ大学の事例から	伊藤遊・山中千恵	2006.3.	『マンガ研究』9号 pp6-17. 日本マンガ 学界

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	22	人	(22 人の学部生を 4 人の教員が指導)		
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本科学哲学会	編集委員	1999. 4	
学会	日本科学哲学会	評議員	2003. 4	
学会	科学基礎論学会	評議員	2005. 4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間科学基礎理論特講
科学基礎論特定演習 I (前期課程)
科学基礎論特定演習 II (前期課程)
科学基礎論特定研究 I
科学基礎論特定研究 II
認知と論理特講
論理科学特定演習 I (前期課程)
論理科学特定演習 II (前期課程)
論理科学特定研究 I
論理科学特定研究 II
科学基礎論特別演習 I (後期課程)
科学基礎論特別演習 II (後期課程)
科学基礎論特別研究 I
科学基礎論特別研究 II

論理科学特別演習 I (後期課程)
論理科学特別演習 II (後期課程)
論理科学特別研究 I
論理科学特別研究 II
人間科学基礎理論
認知科学
基礎人間科学演習 II
基礎人間科学実験実習 I
基礎人間科学実験実習 II
基礎人間科学実験実習 III
主題別教育科目「科学と社会」
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
大学・研究所 等の報告	信念内容の個別化	中山 康雄	2006. 3	大阪大学人間科学研究科紀要32, 59-73
解説・総説	伊勢田哲治著『認識論を社会化する』	中山 康雄	2005. 12	科学哲学, Vol. 38-2, 145-148
学術論文	四次元メレオロジーと人物の同一性	中山 康雄	2005. 10	科学基礎論研究 Vol. 33 No. 1, 1-7
会議報告	A Logical Analysis of A Series and B Series	Yasuo Nakayama	2005. 8	<i>Time and History - Papers of the 28th International Wittgenstein Symposium</i> , 209-211
解説・総説	何故、私はA論者でもB論者でもないのか—加地氏の書評に答えて—	中山 康雄	2005. 7	科学哲学, Vol. 38-1, 93-95
会議報告	アナロジーのプロトタイプ解釈	伊藤 彰雄・中山 康雄	2005. 7	日本認知科学会大22 回大会発表論文集, 168-169
会議報告	素朴心理学の新モデルの提案	中山 康雄	2005. 7	日本認知科学会大22 回大会発表論文集, 230-231
会議報告	発語内的効果間の論理的関係	安本 英奈・中山 康雄	2005. 7	日本認知科学会大22 回大会発表論文集, 362-363
会議報告	Focus, Presupposition, and Propositional Attitude	Yasuo Nakayama	2005. 6	<i>Proceedings of the Second International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS2005)</i> , 9-20

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	5	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	9	人	9人/5名の教員		
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本記号学会	理事		
学会	日本記号学会	編集委員		

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
論文受理検討委員会	委員	2003.4	
大阪大学出版会委員会	委員	2003.5	
紀要編集委員会	委員	2003	

担当授業科目

基礎人間科学概論
現代記号学特別演習Ⅰ
現代記号学特別演習Ⅱ
基礎人間学特別研究Ⅰ
基礎人間学特別研究Ⅱ
現代記号学特別研究Ⅰ
現代記号学特別研究Ⅱ
現代記号学特定演習Ⅰ
現代記号学特定演習Ⅱ
基礎人間学特定研究Ⅰ
基礎人間学特定研究Ⅱ
現代記号学特定研究Ⅰ
現代記号学特定研究Ⅱ
基礎人間学特講
基礎人間学演習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
基礎人間学
社会人・院生特別講義
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
	言語はモノではない——あるいは、言語学が仮構する「言語」の非存在証明	菅野盾樹	2005.3.	『言語』2005年3月号, pp. 48-55, 大修館書店
	「言語学はいかなる学問なのか」という問いはどこまで正しいか	菅野盾樹	2005	日本英語学会第23回大会 Conference Handbook23、2005、pp.213-218.
	現代倫理学事典		2005	弘文堂
	レトリック論を学ぶ人のために	菅野盾樹編著		世界思想社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	17	人	4名の教員が指導		
学位申請者	9	人	4名の教員が指導		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本哲学会	編集委員	2005.7.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大学院GP委員会			
学生支援室委員会			

担当授業科目
現代人間学
表象・記号学
基礎人間科学演習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
基礎人間学特定演習Ⅰ
基礎人間学特定演習Ⅱ
基礎人間学特定研究Ⅰ
基礎人間学特定研究Ⅱ
哲学的人間学特講
表象・記号学特講
現代記号学特定研究Ⅰ
現代記号学特定研究Ⅱ
基礎人間学特別演習Ⅰ
基礎人間学特別演習Ⅱ
基礎人間学特別研究Ⅰ
基礎人間学特別研究Ⅱ
現代記号学特別研究Ⅰ
現代記号学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
対談	「西田から「哲学」を再開するために」	檜垣立哉・小 泉義之	2005.7	河出書房新 社
論文	「ドゥルーズ的政治学とは何か、何であるべきか」	檜垣立哉	2005.1	河出書房新 社
論文	「<生の哲学>における身体・空間論の展開」	檜垣立哉	2006.3	年報人間科 学

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	3	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	1	人
研究生	1	人			
学部生	2	人			
学位申請者	2	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
全集	『世界の地域』(ウィーン)	編集委員	2005.1	現在まで
全集	Globalisierung und Entwicklungspolitik	編集委員	2004.12	現在まで
学会	European Association for Japanese Studies	Convenor	2004.5	現在まで
全集	Neue Fischer Weltgeschichte	編集委員	2003.8	現在まで
全集	Edition Weltregionen	編集委員	2002.8	現在まで
国際雑誌	Max Weber Studies	編集委員	2000.6	現在まで

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
安全衛生委員会	委員	2004.4	現在まで
防災対策委員会	委員	2004.4	現在まで
国際交流室	室員	2005.4	現在まで
セクハラ・アカハラ委員会	委員	2005.4	現在まで

担当授業科目
比較思想史特講
比較文明学特定演習 I
比較文明学特定演習 II
比較文明学特定研究 I
比較文明学特別研究 I
比較文明学特別演習 I
比較文明学特別演習 II
比較文明学特別研究 I
比較文明学特別研究 II
文明動態学
比較思想史
卒業演習
卒業研究
基礎人間科学演習 I
基礎人間科学演習 II
インターフェイス文明学特定演習 I
インターフェイス文明学特別演習 I
インターフェイス文明学特定演習 II
インターフェイス文明学特別演習 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	Globalisierung und Globalgeschichte	Wolfgang Schwentker, Margarete Grandner, Dietmar Rothermund (Hg.)	2005.12	Wien: Mandelbaum
学術論文	マックス・ヴェーバーを視野に歴史 を書くーW. J. モムゼン、1930ー2 004	ヴォルフガング・シュヴェ ントカー	2005.9	『歴史学研究』、 805 号、18-23、 46 頁、青木書 店
学術論文	近代の精神ーマックス・ヴェーバー の「プロテスタンティズムの倫理」と 日本の社会科学	ヴォルフガング・シュヴェ ントカー	2005.10	『思想』978 号、 63ー81 頁、岩 波書店
学術論文	Meistererzählungen ” in der japanischen Historiographie	Schwentker, Wolfgang	2005 印刷中	Michael Lackner (Hrsg.), Selbstbehauptu ngsdiskurse in Ostasien, München: Iudicium

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	10	%
社会貢献	15	%
学内運営	65	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	12	人			
うち 社会人院生			0	人	留学生 1 人
博士後期課程	22	人			
うち 社会人院生			0	人	留学生 3 人
研究生	0	人			
学部生	19	人			
学位申請者	2	人			

※すべて 4 人の教授による共同の指導である。

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	日本学術会議(第 20 期)	第一次連携会員(第 1 部)	2006.3	在任
国・地方公共団体	日本学術会議(第 19 期)	文化人類学・民俗学研究 連絡委員会委員	2004.10	2005.9
国・地方公共団体	文部科学省	委員(非公開)	2004.7	在任
公益法人	人間文化研究機構国立民族学博物館	運営会議委員	2004.5	在任
公益法人	独立行政法人日本学術振興会	委員(非公開)	2006.1	在任
公益法人	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	独立行政法人国際協力 機構中米・カリブ地域別 支援委員会委員	2003.4	在任
学会	日本文化人類学会	日本文化人類学会 理事 国際連携委員長	2004.4	2006.3
学会	人類学会世界協議会(WCAA - World Council of Anthropological Associations)	日本文化人類学会代表 (International Delegate)	2004.6	在任
学会	人類学会世界協議会(WCAA - World Council of Anthropological Associations)	代表幹事 (WCAA Facilitator)	2005.11	在任
学会	IUAES(国際人類民族科学連合)	IUAES(国際人類民族科 学連合)国内委員	1998.7	在任
学会	日本ラテンアメリカ学会	日本ラテンアメリカ 理事	2003.2	在任
学会	CELAO - Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y de Oceania (ラテンアメリカ研究アジア・オセアニア 協議会)	ラテンアメリカ研究アジア・ オセアニア協議会副会長 (Vice Presidente)	2003.9	2005.7

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
役員会・役員連絡会	総長補佐	2006.4	在任
研究推進室	室員	2005.4	在任
研究推進室 文理融合研究戦略 WG	主査	2005.4	在任
研究推進室 文系研究戦略 WG	副査	2005.4	在任
国際交流推進本部	本部員(オブザーバー)	2005.5	在任
部局長会議	総長補佐(オブザーバー)	2006.5	在任
部局長会議	人間科学研究科長・人間科学部長	2004.5	2006.4
教育研究評議会	総長補佐(オブザーバー)	2006.5	在任
教育研究評議会	人間科学研究科長・人間科学部長	2004.5	2006.4
産学官連携問題委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
社会教育主事講習運営委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
第一種奨学金返還免除候補者選考委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
保健センター運営委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
大学教育実践センター運営協議会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
コミュニケーションデザイン・センター運営協議会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
RISS(サステイナビリティ・サイエンス研究機構)	運営委員会委員	2006.4	2006.4
RISS(サステイナビリティ・サイエンス研究機構)	企画推進室員・兼任教授	2006.4	在任

担当授業科目
卒業演習
卒業研究
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
人類学特定研究Ⅰ
人類学特定研究Ⅱ
人間と文化特定演習Ⅱ
インターフェイス人類学特別講義Ⅰ
インターフェイス人類学特別講義Ⅱ
人類学特別研究Ⅰ
人類学特別研究Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅱ
基礎セミナー
特別科目「知性への誘い」

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	中米地域先住民族への協力のあり方	小泉潤二・池田光穂・鈴木紀	2006.1	平成16年度 独立行政法人国際協力機構 客員研究員報告書 頁総数168頁
論文	Pluralizing Anthropology	Koizumi, Junji	2005.10	Anthropology News 46(7): 9.
国際学会発表	Towards Empirical Pre-project Research for Development Programs: A Case of an ODA Program in Guatemala	Koizumi, Junji	2005.9	Paper presented at the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Inter-Congress 2005, Pardubice, Czech Republic, 29 August - 3 September 2005.
国際学会発表	Japanese Anthropology in World Anthropologies	Koizumi, Junji	2005.7	Paper presented at the session “ Antropologías mundiales: podemos pensar fuera de los discursos hegemónicos? ” at Primer Congreso Latinoamericano de Antropología, Rosario, Argentina, July 11-15, 2005.
国際学会発表	The Use of a Survey Paradigm for Effective Pre-Project Research for Development Programs: An Example from Japanese ODA in Guatemala	Koizumi, Junji	2005.7	Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia e Oceanía (CELAO): Inaugural Conference 2005. July 14-16, 2005, Institute of Advanced Studies: La Trobe University, Bundoora Campus, Melbourne, Australia.
論文	フィールドワークと民族誌	小泉潤二	2005.4	山下晋司編『文化人類学入門—古典と現代をつなぐ20のモデル』 pp.14-26

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	10	人			
うち 社会人院生			0	人	留学生 1 人
博士後期課程	20	人			
うち 社会人院生			0	人	留学生 3 人
研究生	0	人			
学部生	14	人			
学位申請者	0	人			

* 全て4人の教員の指導である。

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	国際交流委員会		2004.4	
	入学試験委員会		2003.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	12	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 2 人
博士後期課程	18	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 2 人
研究生	2	人			
学部生	14	人			
学位申請者	2	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本アフリカ学会	理事	2002.4	
学会	日本文化人類学会	理事	2003.4	
学会	日本ナイル・エチオピア学会	評議員	1992.4	
公益信託	澁澤民族学振興基金	運営委員	2001.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大阪大学総合学術博物館運営委員会	委員	2004.4	

担当授業科目
文化人類学
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学演習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
人類学理論特講(B)
卒業演習
卒業研究
人類学特定演習Ⅰ(A)
人類学特定演習Ⅱ(A)
人類学特別演習Ⅰ(B)
人類学特別演習Ⅱ(B)
人類学特定研究Ⅰ
人類学特定研究Ⅱ
人類学特別研究Ⅰ
人類学特別演習Ⅱ
人間と文化特定演習Ⅰ
人間と文化特定演習Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅱ
人間と文化特定研究Ⅰ
人間と文化特定研究Ⅱ
人間と文化特別研究Ⅰ
人間と文化特別研究Ⅱ
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
インターフェイス人類学特別講義Ⅰ
インターフェイス人類学特別講義Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「スーダン内戦の終結と戦後復興」『海外事情』4月号	栗本英世	2005.4	拓殖大学海外事情研究所
学術論文	「教育に託した開発/発展への夢—内戦、離散とパリ人」田沼幸子編『ポスト・ユートピアの民族誌』	栗本英世	2006.3	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」
学術論文	Resurgence in the Midst of Predicaments: Studies on North East Africa by Japanese Anthropologists, 1996-2005. Japanese Review of Cultural Anthropology vol.6.	E. Kurimoto	2006.3	日本文化人類学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	20	%
社会貢献	0	%
学内運営	45	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「新しい社会的リアリティをつくる：フランスにおける相互扶助アソシアシオンの事例」	中川理	2006	『ポスト・ユートピアの民族誌』(大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」報告書)
学術論文	「経済人類学における『交換の枠組み』概念」	中川理	2006	人間科学研究科紀要』32
博士論文	『新しい社会経済的リアリティをつくる：フランスにおける地域開発の民族誌的研究』	中川理	2006	大阪大学人間科学部

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	50	%
社会貢献	5	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	11人を4人で指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	1	人
博士後期課程	18人を4人で指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	2	人
研究生	0	人				
学部生	9人を4名で指導					
学位申請者	4	人				

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本文化人類学会	理事	2006.5	2008.4
学会	日本オセアニア学会	評議員	2005.4	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教務委員会	委員	2004.5	2006.4
GP 推進委員	委員	2005.9	2007.3

担当授業科目
基礎人間科学概論
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学演習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
人類学理論特講
人類学特定演習Ⅰ
人類学特定演習Ⅱ
人類学特定研究Ⅰ
人類学特定研究Ⅰ
文化人類学演習Ⅰ
人間と文化特定演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅰ
文化人類学
人間と文化特定研究Ⅰ
人間と文化特定研究Ⅱ
人類学特別演習Ⅰ
人類学特別演習Ⅱ
人類学特別研究Ⅰ
人類学特別研究Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅱ
人間と文化特別研究Ⅰ
人間と文化特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	6	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	10	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育思想史学会	編集委員	2003.11.	
	教育哲学会	編集委員	2005.10.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育実習専門部会	委員	2004.4.	

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ(人間の形成)
基礎セミナー(子どもの現在)
教育人間学Ⅰ
教育人間学Ⅱ
教育人間学演習Ⅰ
教育人間学演習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育人間学特講Ⅰ
教育人間学特講Ⅱ
教育人間学特定演習Ⅰ
教育人間学特定演習Ⅱ
教育人間学特定研究Ⅰ
教育人間学特定研究Ⅱ
教育人間学特別演習Ⅰ
教育人間学特別演習Ⅱ
教育人間学特別研究Ⅰ
教育人間学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
翻訳	歴史的人間学事典2	クリストフ・ヴルフ	2005.9	勉誠出版
著書(共著)	Pädagogik im Militarismus und im Nationalsozialismus. Japan und Deutschland im Vergleich.	Klaus-Peter Horn/Michio Ogasawara/Masaki Sakakoshi/Heinz-Elmar Tenorth/Jun Yamana/Hasko Zimmer (Hrsg.)	2006.3	Julius Klinkhardt
報告書(共著)	教育学における優生思想の展開 - 歴史と展望 -、課題番号 15330165、平成 15-17 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1) 研究成果報告書	藤川信夫/高木雅史/岡部美香/根村直美/丸山恭司/山内紀幸	2006.3	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	0	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生				人			
学部生				人			
学位申請者				人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育人間学
文献講読 I

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	他者論の行方 ～生命、メディア、あるいは、不在の刻印	久保田健一郎・森岡次郎・谷村千絵・藤田雄飛	2005.9	近代教育フォーラム
著書(翻訳)	『歴史的人間学事典2』「同一性」	ゲルノート・ベーメ	2005.9	勉誠出版
著書(翻訳)	『歴史的人間学事典2』「記憶と想起」	ディートリヒ・ハルト	2005.9	勉誠出版

教育学系 藤岡 淳子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	5	人	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	6	人	社会人院生	1	人	留学生	0	人
研究生		0	人						
学部生		36	人						
学位申請者		1	人						

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育心理学 I
教育心理学演習 I
臨床教育学実験実習 I
人格心理学特講
教育心理学特講
教育心理学特別研究 I
教育心理学特別研究 II
教育心理学特別演習 I
教育心理学特別演習 II
教育心理学特定研究 I
教育心理学特定研究 II
教育心理学特定演習 I
教育心理学特定演習 II
臨床心理基礎実習 II
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門編著書	被害者と加害者の対話による回復を求めて	藤岡淳子	2005.6	誠信書房
解説・総説	臨床心理学キーワード	藤岡淳子	2005.9	
解説・総説	矯正に関して思うこと	藤岡淳子	2005.6	
解説・総説	「子どもわいせつ者」の理解と対応	藤岡淳子	2005.4	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	5	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	6	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	36	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試調査専門委員会	委員	2005. 3.	
サイバーメディア室	担当委員	2005. 3.	

担当授業科目
基礎心理学
人間科学概論Ⅲ
教育心理学Ⅱ
教育心理学演習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
教育心理学特定研究Ⅰ
教育心理学特別研究Ⅰ
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	子どもの養育環境と心理的危機, レジリエンスに関する研究/教育心理学フォーラム・レポート FR2005-01	玉田尚子・中谷素之	2005.7.	日本教育心理学会
学術論文	動機づけスタイルが課題への興味に及ぼす影響/教育心理学研究 第56巻1号	岡田涼・中谷素之	2006.3.	日本教育心理学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数> 当研究分野では、以下の学生すべてを4人の教員が共同して指導しています。

博士前期課程	25	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	16	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	2	人			
学部生	42	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本ユング心理学研究所	理事	2001.8.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大学教育実践センター兼任(教養教育科目委員会, 国際教育科目委員会, カリキュラム企画委員会, 留学生委員会, 研究部教育広報部門委員会, ガイダンス室室員)	委員	2004. 4.	2006.3

担当授業科目

基礎心理学
教育学特別講義 I
教育臨床心理学演習 II
臨床心理学特定研究 I
臨床心理学特定研究 II
臨床心理学特別研究 I
臨床心理学特別研究 II
卒業演習
卒業研究
臨床教育学概論
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床教育学実験実習 I
臨床心理学特講 II
臨床心理学特論 II
臨床心理基礎実習 I
臨床心理基礎実習 II
臨床心理査定演習 I
臨床心理査定演習 II
臨床心理実習 I
臨床心理実習 II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	東洋英和女学院大学心理相談室紀要 vol.8/夜の海を行く方舟	老松克博	2005.3.	東洋英和女学院 大学心理相談室
学術論文	心理相談研究第6号/自然のサイクルに 向き合う	老松克博	2005.3.	神戸女学院大 学大学院人間 科学研究科心 理相談室
学術論文	箱庭療法学研究17巻2号/アクティブ・イ マジネーションと4次元ジグソーパズル	老松克博	2005.3.	箱庭療法学会
専門著書	ボーダーラインの人々/第6章 分析心理 学から見たボーダーライン	織田尚生編/老松 克博	2005.9.	ゆまに書房
専門著書	心理臨床におけるからだ/第4章 身体的 アプローチとしてのアクティブ・イマジネー ション	目幸黙僊・黒木賢一 編/老松克博	2006.3.	朱鷺書房

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	25	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	16	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	2	人			
学部生	42	人			
学位申請者	1	人			

【注】4人の教員が学部および大学院生をすべて指導。

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
基礎臨床心理学Ⅱ(教職科目)
基礎心理学
子どもの現在
教育臨床心理学Ⅱ
教育臨床心理学演習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理基礎実習Ⅰ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理学特講Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ
臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ
臨床心理学特定演習Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ
臨床心理実習Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	25	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	14	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	2	人			
学部生	42	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
心理教育相談室	副室長	2005.4.	

担当授業科目
教育臨床心理学演習 I
臨床心理学 I
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床心理面接特講 I
臨床心理面接特講 II
臨床心理査定演習 I
臨床心理査定演習 II
臨床心理学特定演習 I
臨床心理学特定演習 II
臨床心理基礎実習 I
臨床心理基礎実習 II
臨床心理実習 I
臨床心理実習 II
臨床心理学特定研究 I
臨床心理学特定研究 II
臨床心理学特別演習 I
臨床心理学特別演習 II
臨床心理学特別研究 I
臨床心理学特別研究 II
臨床心理学特講 I
基礎心理学
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	衝動的な子どもへのブリーフセラピーと動作法の併用	宮田敬一	2005.11.	リハビリテーション 心理学研究、第32 巻2号 37-47
学術論文	Distraction model for co-constructing new story	Keiichi Miyata	2006.3.	Bulletin of graduate school of human sciences, Osaka University, 32, 113-123.
学術論文	ディストラクションモデルにお ける解決志向 アプローチの位 置づけ	宮田敬一	2006.3.	ブリーフサイコセラ ピー研究 第14巻 1号(印刷中)
訳書	ADHD へのナラティブ・アプロ ーチ	監訳 宮田敬一・窪田文子	2006.1.	金剛出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	35	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	25	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	16	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	2	人			
学部生	42	人			
学位申請者	1	人			

(注)4人体制で指導

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	厚生労働省社会保障審議会児童虐待特別委員会	特別委員	2002.11	
国・地方公共団体	兵庫県子どもの虐待検討委員会	アドバイザー	2001.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
臨床心理学特講 I
臨床心理学査定演習 I
臨床心理学査定演習 II
臨床心理学特定演習 I
臨床心理学特定演習 II
臨床心理基礎実習 I
臨床心理基礎実習 II
臨床心理実習 I
臨床心理実習 II
平和の探求
子どもの現在
臨床心理学 I
教育臨床心理学演習 II
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床教育学概論
人間科学概論 III
臨床心理学特講 I
臨床心理学特別演習 I
臨床心理学特別演習 II
臨床心理学特定研究 I
臨床心理学特定研究 II
臨床心理学特別研究 I
臨床心理学特別研究 II
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書(分担執筆)	子ども・家族の自立を支援するために		2005.6	児童自立支援対策研究会
学術論文	虐待を捉える視点		2005.9	小児看護, 28(10), 1423-1426
学術論文	虐待を生む「大人の目」		2005.10	小児看護, 28(11), 1563-1466
学術論文	虐待が及ぼす子どもの心理や行動への影響		2005.11	小児看護, 28(12), 1690-1693
学術論文	子ども虐待の「増加」をめぐる: 集団的トラウマという視点		2005.12	治療, 87(12), 3169-3175
学術論文	子ども虐待と学校の課題		2006.1	月刊生活指導, 36(2), 76-82

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	5	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	11	人	教員 2 人		
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本教育社会学会	理事	2003.10	2007.9
	社会調査士資格認定機構	理事	2003.10	未定
	茨木市教育研究所	顧問	1996.4	2006.3
	財団法人大学基準協会	委員	2005.5	2006.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学内) 生命科学分館運営委員会	委員	2005.4	2006.3
部内) 財務会計委員会	委員長	2004.5	2006.4
部内) 運営会議	委員	2004.5	2006.4

担当授業科目
教育環境学概論
教育動態学Ⅱ
教育動態学Ⅲ
教育動態学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
教育動態学特講
教育社会学特定演習Ⅰ
教育社会学特定演習Ⅱ
教育社会学特定研究Ⅰ
教育社会学特定研究Ⅱ
教育社会学特別演習Ⅰ
教育社会学特別演習Ⅱ
教育社会学特別研究Ⅰ
教育社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	45	%
社会貢献	5	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	11	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	会計部長	2003.9	2005.9

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	オブザーバー	2004.5	
データ管理分析室運営委員会	データ管理分析室員	2004.5	
吹田地区事業場安全衛生委員会	委員	2005.4	

担当授業科目
教育社会学特講(院)
教育社会学特定演習 I(院・共同)
教育社会学特定演習 II(院・共同)
教育社会学特別演習 I(院・共同)
教育社会学特別演習 II(院・共同)
教育社会学特定研究 I(院・共同)
教育社会学特定研究 II(院・共同)
教育社会学特別研究 I(院・共同)
教育社会学特別研究 II(院・共同)
教育学特別講義(院・共同)
教育社会学 I(学部)
教育社会学 II(学部)
教育社会学演習 I(学部)
教育環境学実験実習 I(学部・共同)
教育環境学実験実習 II(学部・共同)
教育環境学実験実習 III(学部・共同)
教育環境学概論(学部・共同)
教育環境学(教職)
人間科学のフロンティア(学部・共同)
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	イ・ジョンガク編『韓国の教育熱 世界の教育熱』12 章「日本の教育システムと教育熱」(韓国語)	中村高康	2005.7	図書出版夏雨
学術論文	Educational System and Parental Education Fever in Contemporary Japan: Comparison with the Case of South Korea	Nakamura, Takayasu	2005.6	KEDI Journal of Educational Policy
学術論文	専門高校からの大学進学-アスピレーション推移の分析から-	中村高康	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要
学術論文	学校社会学における Mixed Methods Research の可能性-高校生の進路に関する3年間継続調査への適用-	中村高康・片山悠樹・西田亜希子・藤原翔	2006.3	大阪大学教育学年報

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	25	%
社会貢献	15	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	1	人			
学部生	27	人	の学生を1人の教員が指導		
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	吹田市	社会教育委員	2004.3.	
	大阪市	視聴覚映画選定委員長	2004.4.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育実習等専門部会	委員長	2004.4.	

担当授業科目

教育制度学Ⅰ(学部)
教育制度学演習Ⅰ(学部)
教育制度学演習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅰ(学部)
教育環境学実験実習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅲ(学部)
卒業演習(学部)
卒業研究(学部)
学校経営学特講(大学院)
教育制度学特定演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特定演習Ⅱ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅱ(大学院)
教育制度学特別研究Ⅰ(大学院)
教育制度学特別研究Ⅱ(大学院)
教育制度学特定研究Ⅰ(大学院)
教育制度学特定研究Ⅱ(大学院)
教育環境学概論(共通教育)
教育環境学(教職科目)
総合演習(教職科目)

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
論文	ウラに見えるホンネを、教職員の共同 の力で読み取る	小野田正利	2005.10.	月刊生徒指導, 第35 巻12号, pp.16-20(学 事出版)
論文	学校への〈無理難題要求〉の急増と保 護者対応の現状	小野田正利	2005.12.	季刊教育法, 第147 号, pp.16-21(エイデ ル研究所)
論文	学校へのイチャモンの急増と保護者 対応の現状	小野田正利	2005.10.	『教育アンケート調査 年鑑2005(下)』, pp.179-189(創育社)
著書(共著)	フランスにおける教師の地位	堀尾輝久・浦野東 洋一編著 小野田正利	2005.6.	堀尾輝久・浦野東洋 一編著『日本の教員 評価に対するILO・ ユネスコ 勧告』 pp.117-128(つなん 出版)
著書(共著)	教師は何でも屋、だから子どもがつな ぐ	大阪高生研編 小野田正利	2005.12.	大阪高生研編『先生 の元気のもと』 pp.9-20(青木書店)
著書	悲鳴をあげる学校Ⅱ～イチャモン(無 理難題要求)の現状とその本質	小野田正利	2006.1.	大阪大学・人間科学 研究科・教育制度学 研究室 96p.
その他(共著)	学校と保護者・地域の連携	小野田正利・浅田 昇平	2005.5.	『最新教育基本用語 2005年版』 pp.106-125(小学館)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	70	%
教育	10	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	6	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	1	人			
学部生	14	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学校評議員	吹田市立片山小学校			

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
道徳・同和教育論(教職)
総合演習(教職)
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(以下はすべて2人の教員が指導)

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	12	人			
うち	社会人院生		2	人	留学生 0 人
研究生	1	人			
学部生	4	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
審議会	大阪府人権施策推進審議会	委員	1999.5	
審議会	奈良県人権施策推進審議会	副座長	1998.4	
運営委員会	箕面市萱野人権文化センター 運営委員会	委員長	1997.4	
協会	大阪府人権協会	理事	2002.3	
研究所	部落解放・人権研究所	理事	2005.7	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人権問題委員会	委員長	2005.4	2006.3
国際交流委員会	委員	2005.2	
研究倫理WG	委員	2006.2	

担当授業科目
道徳・同和教育論
人権教育学Ⅰ
人権教育学Ⅱ
人権教育学演習Ⅰ
人権教育学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
教育環境学概論
卒業演習
卒業研究
生涯教育学特講
人権教育学特講
生涯教育学特定演習Ⅰ
生涯教育学特定演習Ⅱ
生涯教育学特定研究Ⅰ
生涯教育学特定研究Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ
生涯教育学特別演習Ⅱ
生涯教育学特別研究Ⅰ
生涯教育学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Pushing the Envelope	平沢安政	2005.6	ワシントン州
学術論文	人権教育のABCを読む	平沢安政	2005.9	解放出版社
学術論文	人権教育のための世界プログラム」の視座と原則	平沢安政	2005.11	明治図書
著書	解説と実践 人権教育のための世界プログラム	平沢安政	2005.11	解放出版社
学術論文	地球市民教育としての多文化教育の動向	平沢安政	2005.12	明治図書
学術論文	これからの人権教育に求められるもの	平沢安政	2005.12	大阪府人権協会
学術論文	「人権教育のための世界プログラム」の推進に向けて	平沢安政	2006.1	滋賀県人権センター
著書	民主主義と多文化教育ーグローバル化時代における市民性教育のための原則と概念	平沢安政	2006.1	明石書店
学術論文	社会教育における人権教育の推進	平沢安政	2006.2	岡山県教育委員会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	45	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	9	人			
うち	社会人院生		2	人	留学生 0 人
研究生	1	人			
学部生	3	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	紀要編集委員	2004.4	2006.3
学外運営	大阪府	男女共同参画審議会委員	2004.4	2006.3
学外運営	大阪府	男女共同参画活動助成事業審査委員会委員	2004.4	2006.3
学外運営	大阪府	人権教育推進懇話会委員	2004.4	2007.3
学外運営	豊中市	男女共同参画審議会委員	2004.2	2006.3
学外運営	吹田市	男女共同参画審議会委員	2004.4	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ
教育環境学概論
教育環境学(教職科目)
社会教育学Ⅰ
社会教育学Ⅱ
社会教育学演習Ⅰ
社会教育学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
生涯教育学特定演習Ⅰ(前期課程)
生涯教育学特定演習Ⅱ(前期課程)
生涯教育学特定研究Ⅰ
生涯教育学特定研究Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ(後期課程)
生涯教育学特別演習Ⅱ(後期課程)
生涯教育学特別研究Ⅰ
生涯教育学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	45	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人	の院生を3人の教員で		
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	12	人	の院生を3人の教員で		
うち	社会人院生	2	人	留学生	0
研究生	1	人			
学部生	4	人			
学位申請者	1	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	専門職員不在の公民館に関する事例研究	遠藤和士	2006.3 発行予定	人間科学研究科紀要
学術論文	自主グループ活動に関する支援のあり方に関する研究	同上	2006.3 発行予定	教育学年報

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	2	人			
学部生	14	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	理事	2000.4	
学会	日本カリキュラム学会	理事	2001.4	
学会	Race Ethnicity & Education 誌	海外編集委員	1999.9	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教職課程委員会	委員	2004.4	

担当授業科目
教育環境学概論
教育計画学Ⅰ
教育計画学Ⅱ
教育計画学演習Ⅰ
教育計画学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育文化学特講
教育学特別講義Ⅱ
教育文化学特定演習Ⅱ
教育文化学特定演習
教育文化学特講
学校社会学特講
教育文化学特定演習Ⅰ
教育文化学特定演習Ⅱ
教育文化学特定研究Ⅰ
教育文化学特定研究Ⅱ
教育学特別講義Ⅱ
教育文化学特別演習Ⅰ
教育文化学特別演習Ⅱ
教育文化学特別研究Ⅰ
教育文化学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	学力を育てる	志水宏吉	2005.11	岩波書店

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	25	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	10人を2人の教員が指導			
うち	社会人院生	6	人	留学生
				3
博士後期課程	10人を2人の教員を指導			
うち	社会人院生	4	人	留学生
				1
研究生			人	
うち				留学生
				1
学部生	75人を5人の教員が指導			
学位申請者		1	人	

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	国際協力機構	国際協力研究編集委員	1997.4	
学会	国際ボランティア学会	会長	2004.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
ボランティア教育学
ボランティア教育方法論
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
国際教育協力論特講
国際人間開発学特講
国際協力学特定演習Ⅰ
国際協力学特定演習Ⅱ
国際協力学特定研究Ⅰ
国際協力学特定研究Ⅱ
国際社会活動論特講
国際協力学特別演習Ⅰ
国際協力学特別演習Ⅱ
国際協力学特別研究Ⅰ
国際協力学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	紛争後の国への教育協力の課題	内海成治	2005.6.	比較教育研究 vol.31
学術論文	緊急教育支援の動向と課題	内海成治	2005.10.	国際教育協力論 集 ,vol . 8, No.2,15-24.
著作	教育メディアほか	内海成治	2005.1.	新版 日本語教育事 典 大修館

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	40	%
社会貢献	20	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	18	人			
うち	社会人院生	6	人	留学生	10
博士後期課程	19	人			
うち	社会人院生	9	人	留学生	1
研究生	4	人			
学部生	18	人			
学位申請者	2	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
委員会等	厚生労働省大臣官房国際課・国際協力事業評価検討会	座長	2003.4.	2006.3.
委員会等	国際協力機構(JICA)・国別特設研修ブラジル出産時ケア運営委員会	運営委員長	2002.4.	現在に至る
委員会等	国際協力機構(JICA)・ラオス子どもの健康プロジェクト	国内委員	2005.4.	現在に至る
委員会等	国際協力機構(JICA)・保健医療分野課題別支援委員会	委員	2005.4.	現在に至る
委員会等	国際協力機構(JICA)・救急大災害医療セミナー運営委員会	運営委員	2002.4.	現在に至る
委員会等	エイズ予防財団・エイズ対策研究推進事業運営委員会	運営委員	2005.4.	2006.3.
NGO 活動	特定非営利活動法人 Health and Development Services (HANDS)	代表理事	2001.4.	現在に至る
NGO 活動	ジャパン・プラットフォーム評議会	有識者評議員	2003.4.	現在に至る
学会	日本国際保健医療学会	理事	2003.4.	22006.3.
学会	学会誌「国際保健医療」	編集委員長	2003.4.	現在に至る
学会	日本子どもの虐待防止学会・国際活動委員会	副委員長	2005.4.	現在に至る
学会	国際ボランティア学会	常任理事	2003.4.	現在に至る
学会	日本プライマリ・ケア学会	評議員	1998.4.	現在に至る
学会	日本熱帯医学学会	評議員	2000.4.	現在に至る
学会	海外渡航者の健康を考える会	評議員	2002.4.	現在に至る

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
海外教育研究拠点ワーキング・グループ	委員		

担当授業科目
特別講義Ⅱ (医学系研究科保健学専攻)
環境保全論(人間科学部)
多文化共生論(人間科学部)
多文化共生学特講(人間科学研究科)
国際社会活動論特講(人間科学研究科)
国際保健学特講(人間科学研究科)
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
国際協力学特定演習Ⅰ
国際協力学特定演習Ⅱ
国際協力学特定研究Ⅰ
国際協力学特定研究Ⅱ
国際協力学特別演習Ⅰ
国際協力学特別演習Ⅱ
国際協力学特別研究Ⅰ
国際協力学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
原著	小児がん医療現場における遊び活動の課題—医療従事者による学生ボランティアに関する調査評価から.	李 永淑, 駒田美弘, 中村安秀.	2005.8	小児保健研究
原著	外国人妊婦の「飛び込み分娩」に関する実態調査—医療機関における 12 年間の分娩事例の検討	井上千尋, 李 節子, 松井三明, 中村安秀, 箕浦茂樹, 牛島廣治	2005.8	小児保健研究
原著	外国人の子どもの就学状況に関する変動—パイロット地域・岐阜県可児市における実態調査から.	小島祥美, 中村安秀.	2005.12	移民研究年報
原著	ボランティア団体・行政・研究者による協働調査とその意義.	小島祥美, 中村安秀.	2006.2	ボランティア学研究
総論	虐待への対応:わが国で生活する外国人における問題とその援助.	柳川敏彦, 中村安秀.	2005.2	小児科診療
総論	小児に対する国際保健医療協力の現状と課題.		2005.7	小児科臨床増刊号
総論	広がりつつある母子健康手帳.	當山紀子, 中村安秀.	2005.7	小児科臨床増刊号
総論	ヘルスリサーチ・ワークショップの企画参加体験記——分野を越えた出会いと学びの場.	中村安秀, 平井愛山, 福原 俊一, 今井 博久, 川越 博美, 菅原 琢磨, 中島 和江, 中村 洋.	2005.7	公衆衛生
学術誌・座談会	戦後の日本の経験を国際協力に活用する.	中村安秀, 石川信克, 佐藤 寛, 坂本真理子, 大石和代.	2005.7	公衆衛生

総論	Public health impact of disaster on children.	Nakamura Y.	2005.7	Japan Medical Association Journal
総論	災害現場のコラボレーションボランティアの立場から.	中村安秀.	2005.11	救急医療ジャーナル
学術誌・座談会	開発途上国における帝国医療の光と影.	池田光穂, 奥野克巳, 中村安秀, 門司和彦, 脇村孝平, 阿部健一.	2006.3	地域研究
著書(監修)	子どものための予防接種 各国の状況 2004年版	平山宗宏, 中村安秀, 岡部信彦.	2005.3.	母子衛生研究会
著書	プロジェクト・マネジメント. 国際保健医療学 第2版(日本国際保健医療学会編集)	中村安秀.	2005.5.	杏林書院
著書	外国の育児. 育児の事典(平山宗宏, 中村敬, 川井 尚編)	中村安秀.	2005.5.	朝倉書店
著書(監修)	わたしたちの海外子育て	中村安秀.	2006.3.	母子衛生研究会
著書	海外渡航する児童生徒への予防接種. 学校医・学校保健ハンドブック(衛藤隆, 中原俊隆編集)	中村安秀.	2006.3.	文光堂
翻訳	薬物療法の原理(711章)、投薬法(712章)ネルソン小児科学 原著第17版. (Nelson Textbook of Pediatrics 17th edition. edited by Behrman RE, Kliegman RM, Jenson HB. W. B. Saunders, 2004)	中村安秀.	2005.11.	エルゼビア・ジャパン

共生学系 関 嘉寛

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
都市とメディア

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	学生による災害時のボランティア活動と状況的関心	諏訪晃一・渥美公秀・関嘉寛	2006.2	国際ボランティア学会『ボランティア学研究』Vol.6, pp.71-96
学術論文	災害復興期における公共性と市民活動	関嘉寛	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』vol.32, pp.211-232
学術論文	大学院生対象情報教育コンテンツの開発と評価	西端律子・宮本友介・能川元一・内海博文・川野英二・関嘉寛	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』vol.30, pp.93-112

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程		人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	1	人			
学位申請者	2	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
財団法人	三井住友海上福祉財団	理事	2005.7.1.	
		選考委員	2004.8.20.	
社会福祉法人	大阪府社会福祉協議会	社会貢献基金運営委員会委員長	2004.12.1.	
NPO法人	地域ケア政策ネットワーク	理事	2004.7.23.	
社会福祉法人	奉優会	評議員	2004.5.24.	
社会福祉法人	浴風会国際長寿センター	理事	2005.4.1.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
中之島講座運営委員会(全学委員会)	委員	2005.4.1.	
運営会議(部局委員会)	委員	2005.4.1.	
財務会計委員会(部局委員会)	委員	2005.4.1.	
ボランティア人間科学講座(部局委員会)	幹事	2005.4.1.	

担当授業科目

地域活動論
ボランティア指導者育成論
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅰ
ボランティア人間科学実験演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
社会保障政策論特講Ⅰ
社会保障政策論特講Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特定演習Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特定演習Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特定研究Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特定研究Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特別演習Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特別演習Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特別研究Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
解説・総説	タキシードとTシャツ	堤 修三	2005.4.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	NHKと年金	堤 修三	2005.4.	月刊介護保険情報
解説・総説	保険料財源の誘惑	堤 修三	2005.5.	月刊介護保険情報
解説・総説	介護保険法改正と事業者規制	堤 修三	2005.5.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	未来からの自由	堤 修三	2005.6.	月刊介護保険情報
解説・総説	貢献原則とその危険な例外	堤 修三	2005.6.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	人は何故ケアをするのか	堤 修三	2005.7.	月刊介護保険情報
解説・総説	医療・介護給付費の伸びの抑制を考える	堤 修三	2005.7	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	マネジメントサービスの方法	堤 修三	2005.8.	月刊介護保険情報
解説・総説	迷走する高齢者医療制度改革	堤 修三	2005.8.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	人民の人民による人民のための	堤 修三	2005.9.	月刊介護保険情報
解説・総説	社会的経済における事業主体	堤 修三	2005.9.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	障害者自立支援法案の立法政策的検討	堤 修三	2005.9.	社会保険旬報
会議報告	21世紀の健康保険制度	堤 修三	2005.9.	健康保険
解説・総説	介護予防という権力	堤 修三	2005.10.	月刊介護保険情報
報道	9.11 総選挙 なにが論点「社会保障」	堤 修三	2005.8.30	朝日新聞
解説・総説	介護保険改革－穿った見方	堤 修三	2005.10.	月刊シニアビジネス スマーケット
解説・総説	憲法の季節	堤 修三	2005.11.	月刊介護保険情報

解説・総説	バップン改革という呪文	堤 修三	2005.11.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	介護保険創設秘話	堤 修三	2005.11.	いとと 50 号
解説・総説	格差拡大社会と社会保障	堤 修三	2005.12.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	政策の構成原理	堤 修三	2005.12.	月刊介護保険情報
解説・総説	同情には値すれども－医療制度構造改革試案を読んで－	堤 修三	2006.1.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	地方の逆選択と社会保障	堤 修三	2006.1.	月刊介護保険情報
解説・総説	介護保険が目指したものと 2005 年改革	堤 修三	2006.1.	病院経営
解説・総説	障害者自立支援法の立法政策的検討	堤 修三	2006.1.	クレイリエール
解説・総説	総医療費の規模に意味はあるか	堤 修三	2006.2.	月刊介護保険情報
解説・総説	施設の総量規制とサービスの質	堤 修三	2006.2.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	ちょっと逆さま	堤 修三	2006.3.	月刊介護保険情報
解説・総説	遠くて近い介護と医療	堤 修三	2006.3.	月刊シニアビジネスマーケット

共生学系 渥美 公秀

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	兵庫県台風23号検証委員会(兵庫県)	委員		2005
	大阪府社会教育委員会(大阪府)	委員		2005
	災害ボランティアセンター・コーディネーター養成研修作業部会(全国社会福祉協議会)	委員長		
	内閣府防災ボランティア活動委員会(内閣府)	委員		
	大阪府青年政策会議(大阪府)	助言者	2003.10	
	(特活)日本災害救援ボランティアネットワーク	理事	1999	
	From HUS		2004.11	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
援助行動学
ボランティア行動学
ボランティアの集団力学特講
地域共生論特定研究Ⅰ
地域共生論特定研究Ⅱ
地域共生論特定演習Ⅰ
地域共生論特定演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅲ
ボランティア人間科学演習Ⅰ
インターフェイス共生論特講
卒業演習

卒業研究
災害ボランティア論特講
地域共生論特別演習Ⅰ
地域共生論特別演習Ⅱ
地域共生論特別研究Ⅰ
地域共生論特別研究Ⅱ
インターフェイス共生論特講

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
解説・総説	災害に強いコミュニティのために	渥美公秀	2005.6	CEL, vol. 73, pp.39-42. 大阪ガス エネルギー・ 文化研究所
寄稿記事	山村の智恵、震災復興に	渥美公秀	2006.1.10	朝日新聞
学術論文	学生による災害時のボランティア活動と状況的関心:新潟県中越地震における fromHUS の活動から	諏訪晃一・渥美公秀・関嘉寛	2006.2	ボランティア学研究. 6, 71-95.
学術論文	教育コミュニティづくりとハビタント:地域への外部参入者としての校長	諏訪晃一・渥美公秀	印刷中	日本教育経営学会紀要. 48.
紀要論文	大学発の災害ボランティア活動の記録:新潟県中越地震における fromHUS の活動	諏訪晃一・渥美公秀	印刷中	大阪大学大学院人間科学研究科紀要
報告書	平成16年度大阪府教育委員会委託研究「教育コミュニティづくりの活性化に関する調査研究」	渥美公秀・諏訪晃一(編著)	印刷中	大阪府教育委員会
翻訳	第22章 向社会的と反社会的行動『学生のための心理学ハンドブック』	渥美公秀・諏訪晃一・中村有美	印刷中	ナカニシヤ出版. Eysenck M. W. 2000 Psychology: A Student's Handbook Psychology Press.
解説・総説	第1章 NNPS の年次大会より	渥美公秀	印刷中	CHAT Technical Reports, vol.4 「コミュニ ティ教育の展開のため のネットワークの創造と 人材開発」 関西大学 人間活動理論研究セン ター
学術論文	防災教育をデザインする	渥美公秀	印刷中	自然災害科学, 日本自 然災害学会
学術論文	学校と家庭と地域の協働による教育コミュニティの活性化,	中村有美・渥美公秀・諏訪晃一・山口悦子	2006	ボランティア学研究, 6, 国際ボランティア学会
紀要論文	減災コミュニケーションツールのデザインに向けて:CSCD 減災コミュニケーションデザイン・プロジェクトの概要	渥美公秀・関嘉寛・菅磨志保	印刷中	ボランティア人間科学 紀要, 大阪大学大学院 人間科学研究科ボラン ティア人間科学講座

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	55	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人		
うち	社会人院生		人	留学生
博士後期課程	2	人		
うち	社会人院生		人	留学生
研究生	0	人		
学部生	12	人	3、4年生のみの数。2年生は32人を5人が指導。	
学位申請者	0	人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本地域福祉学会	理事	2005.6	2007.6
学会	北ヨーロッパ学会	理事	2000.11	2006.11
学術誌	日本生命済生会「地域福祉研究」	編集委員	1998.6	特になし

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教務委員会	委員	2004.4	2006.3

担当授業科目
比較福祉論特別演習Ⅰ（院・後期）
比較福祉論特別演習Ⅱ（院・後期）
比較福祉論特別研究Ⅰ（院・後期）
比較福祉論特別研究Ⅱ（院・後期）
比較福祉論特定演習Ⅰ（院・前期）
比較福祉論特定演習Ⅱ（院・前期）
比較福祉論特定研究Ⅰ（院・前期）
比較福祉論特定研究Ⅱ（院・前期）
比較福祉論特講Ⅰ（院）
比較福祉論特講Ⅱ（院）
ボランティア活動受容論（5セメ）
ボランティア行動発現論（6セメ）
ボランティア人間科学演習Ⅰ（6セメ）
ボランティア人間科学演習Ⅱ（7セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ（4セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ（5セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅲ（6セメ）
卒業研究
卒業演習
ボランティア論（共通教育）
人間科学概論（共通教育）

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
教科書	『シリーズ社会福祉の新潮流③障害者福祉論－基本と事例』/「海外から学ぶ・スウェーデン」(印刷中)	斉藤弥生	2006.3 予定	学文社
学術論文	『現代の理論』第3号/「スウェーデンの高齢者福祉と社会的民主主義」	斉藤弥生	2005.4	明石書店
学術論文	『都市問題研究』第57巻第10号通巻658号/「介護政策の国際比較研究・サービスの質の管理を中心に」	斉藤弥生	2005.10	都市問題研究所
学術論文	『地域福祉研究』第34巻/「地域福祉への政治学的アプローチに関する一考察」(印刷中)	斉藤弥生	2006.3 予定	日本生命済生会
学会発表論文	「社民主義レジームにおける介護サービス供給多元化に関する一考察－スウェーデンの高齢者介護とコミュニティの新たな役割－」	斉藤弥生	2005.6	日本比較政治学会
報告書	NIRA 研究報告書 (No.20050046)『広域地方政府化とコミュニティの再生に関する研究-各地域の特性を生かした自治システムの再編-』/「第2節ヒューマンサービスにおけるコミュニティビジネスの現状と可能性-介護サービス供給を事例として- 第5章コミュニティ再生のための諸政策」	斉藤弥生	2005.5	関西社会経済研究所

報告書	平成16～17年度科学研究費補助金研究成果報告書「スウェーデンの高齢者介護サービスにおける供給の多元化と自治体の責任に関する研究」	斉藤弥生	2006.3	科学研究費研究成果報告書
報告書	「第3期御坊市介護保険事業計画」	斉藤弥生	2006.3	御坊市
連載記事	随想「小さい政府と少子化対策」	斉藤弥生	2005.8	神戸新聞
連載記事	随想「わかりやすい政策って何」	斉藤弥生	2005.9	神戸新聞
連載記事	随想「障害者自立支援法案、再び登場」	斉藤弥生	2005.10	神戸新聞
連載記事	随想「サーラさんと高齢者虐待防止法」	斉藤弥生	2005.10	神戸新聞
連載記事	随想「いしばし駅ボラ」	斉藤弥生	2005.11	神戸新聞
連載記事	随想「改正介護保険法」	斉藤弥生	2005.11	神戸新聞
連載記事	随想「認知症高齢者とグループホーム」	斉藤弥生	2005.12	神戸新聞

付属比較行動実験施設 中道 正之

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	50	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	1	人	留学生	0	人
博士後期課程	2人を3名の教員が指導					
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0 人					
学部生	12人を3名の教員が指導					
学位申請者	1 人					

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本動物心理学会学会誌「動物心理学研究」	編集委員	2004.1	
学会	日本霊長類学会会誌「霊長類研究」	編集長	2002.1	2005.6
学会	日本霊長類学会	評議員	1999.6	
学会	日本霊長類学会	理事	2001.6	2005.6
学会	Primates	Associate Editor(編集委員)	1999.1	

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月
動物実験委員会			1996.8	

担当授業科目
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
比較行動発達学
比較心理学
霊長類行動学演習
比較行動発達学演習
比較発達心理学特定演習I
比較発達心理学特定演習II
比較発達心理学特定研究I
比較発達心理学特定研究II
比較発達心理学特別演習I
比較発達心理学特別演習II
比較発達心理学特別研究I
比較発達心理学特別研究II

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	A fatal attack on an unweaned infant by a non-resident male in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>) at Katsuyama.	Yamada, K., Nakamichi, M.	2006.4	Primates.
学術論文	Influence of group size on reproductive success of female ring-tailed lemurs: distinguishing between IGFC and PFC hypotheses.	Takahata, Y., Koyama, N., Ichino, S., Miyamoto, N., Nakamichi, M.	in press	Primates.
その他	Scaffolding by an experienced gorilla mother for her adult daughter with regard to maternal baby care.	Nakamichi, M.	2005.1 1	Annual Report of Osaka University: Academic Achievement 2004-2005, Vol. 6: 10-13.
学術論文	Long-term changes in dominance ranks among ring-tailed lemurs at Berenty Reserve, Madagascar.	Koyama, N., Ichino, S., Nakamichi, M., Takahata, Y.	2005.1 1	Primates, 46: 225-234.
学術論文	Grooming relationships of adolescent orphans in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>) at Katsuyama: a comparison among orphans with sisters, orphans without sisters, and females with a surviving mother.	Yamada, K., Nakamichi, M., Shizawa, Y., Yasuda, J., Imakawa, S., Hinobayashi, T., Minami, T.	2005.4	Primates, 46: 145-150.
学術論文	動物園来園者の動物への興味・関心と飼育展示舎前での来園者の行動との関連	杉本 崇・中道正 之・日野林俊彦・ 南 徹弘	2005.4	ヒトと動物の関係 学会誌 15: 79-83.

付属比較行動実験施設 安田 純

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学外運営	箕面山ニホンザル保護管理委員会	委員	2004.6	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
動物実験委員会	委員	2003.4		

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	保育園児に対する保育士の介入行動	安田純・日野林俊 彦・南徹弘	2006.3	大阪大学大学院人 間科学研究科紀要

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	5	%
教育	55	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室	室員(副室長)	2005.9	

担当授業科目
道德教育論(教職に関する科目)

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
教科書	中戸義雄・岡部美香編、『道德教育の可能性—その理論と実践—』(第5章「道德規範の諸側面」、第9章「応用倫理—生命・環境—」)	丸田 健(分担執筆)	2005.3.30	ナカニシヤ出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	自然災害時における災害対応と防災担当者の意思決定について－2003年8月台風10号による北海道日高地方被害状況からみる一考察－	鈴木勇・申紅仙・中根和郎	2006.3	主要災害調査
学術論文	災害時のボランティアに関する調査研究－新潟・福井豪雨および台風23号の事例－	鈴木勇	印刷中	主要災害調査

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	5	%
教育	5	%
社会貢献	0	%
学内運営	90	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	「いまそこにあるユートピア——ある労働者地下組織と「民主化」前後の韓国」『ポスト・ユートピアの民族誌——トランスナショナルリティ研究5』	太田心平	2006.2	大阪大学 21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」
項目執筆	「コリアン文化に親しむ用語の解説」『現代用語の基礎知識 2006』	太田心平	2005.11	自由国民社
エッセイ	「韓国の国民食「チャジャンミョン」とその心」『Vesta(食文化誌ヴェスタ)』	太田心平	2005.8	農山漁村文化協会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	3	人			
学位申請者	0	人			

【4】2005(平成17)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
全学安全衛生管理委員会	オブザーバ	2005.4	
吹田地区事業場安全衛生委員会	委員	2005.4	
豊中地区事業場安全衛生委員会	オブザーバ	2005.4	
医学部附属病院・歯学部附属病院事業場安全衛生委員会	オブザーバ	2005.4	

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ

【5】2005(平成17)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
大学・研究所等報告	国立大学法人大阪大学における安全衛生管理の取組	太刀掛俊之・山本仁・松本紀文・守山敏樹	2005.6	保全科学
会議報告	大学における事故事例の収集と分析に関する研究	太刀掛俊之・山本仁・臼井伸之介	2005.6	日本人間工学会
会議報告	大学における事故事例の収集に関する研究 - 人的要因の分析に向けて	太刀掛俊之・山本仁・臼井伸之介	2005.8	電子情報通信学会
大学・研究所等報告	中断により誘発されるエラー体験プログラムの概要	太刀掛俊之・篠原一光・臼井伸之介	2006.3	平成17年度厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究事業・分担研究報告書『リスクマネジメント教育の有効性評価に関する総合的研究』